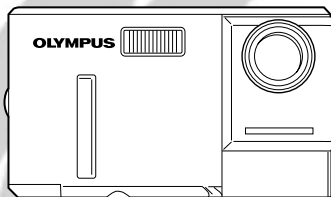
OLYMPUS®

CAMEDIA

デジタルカメラ

C-21T.commu

- 準備をしましょう
- 使ってみましょう
- いろいろな機能を使ってみる
- 撮影した画像をパソコンで見る
- カメラのシステムを設定する
- 付録

カメラ機能編取扱説明書

■このたびは、オリンパス デジタルカメラをお買い上げいただき、ありがとうございます。

■ご使用前にこの説明書をお読みください。

■大切なもの（海外旅行など）をお撮りになる前には、試し撮りをすることをおすすめします。

■携帯電話を接続して使用する通信機能に関しては、別冊の通信機能編取扱説明書をお読みください。

はじめに

このたびはオリンパス　デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品品指定のケーブルを使用しない場合、VCCIルールの限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

本取扱説明書をお読みになる前に

●本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
●本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
●本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
●本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
●本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
●本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格とはカメラファイルシステム規格「Design rule for Camera File system」です。

安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。

⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

電池使用上のご注意

次のことをお守りにならないと、電池の液もれ、発熱、発火、破裂や感電、やけどの原因となります。

⚠ 危険

1. ニッケル水素電池は、専用のオリンパス製蓄電池と充電器をご使用ください。
2. ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
3. 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊やアルカリ液の飛散が生じ危険です。
4. ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
5. 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に直接接続しないでください。
6. 火中への投下や、加熱をしないでください。
7. 電池の液が目に入った場合は、失明の原因になります。こすらずにすぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。

安全にお使いいただくために（つづき）

⚠ 警告

1. 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
2. 電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
   - このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
   - 火中への投下、加熱、ショート、分解をしないでください。
   - 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
   - 充電できないアルカリ電池やリチウム電池を充電しないでください。
   - ＋－を逆にして装着・使用しないでください。
   - 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。
3. ニッケル水素電池の充電が所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
4. 液漏れしたり、変色、変形その他異常を見つけたときは使用しないでください。
5. 電池を誤って飲まないよう乳幼児の手の届かぬ場所で保管及び使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
6. 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。
7. カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。

⚠ 注意

1. オリンパス製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「キャメディア」専用です。他の機器に使用しないでください。
2. 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。
3. 乾電池と蓄電池、及び容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
4. 蓄電池は必ず４本（機種によっては2本）同時に充電してご使用ください。
5. 蓄電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。

6. 長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ、発熱により、火災やけがの原因になります。
7. 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
8. 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など高温の場所で使用･放置しないでください。
9. 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。

その他取り扱い上のご注意

⚠ 警告

1. フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光しないでください。目に近づけて撮影すると、視力に回復不可能な程の傷害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して1m以内の距離で撮影しないでください。
2. 日光および強い光に向けて本製品を使用しないでください。目に回復不可能な程の傷害をきたすおそれがあります。
3. 可燃性ガスおよび爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
4. この製品を幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生のおそれがあります。
   ・誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
   ・電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
   ・目の前でフラッシュが発光し、視力に回復不可能な程の障害を起こす。
   ・カメラの動作部でけがをする。

安全にお使いいただくために（つづき）

5. 湿気やほこりの多い場所にカメラを保管しないでください。火災や感電の原因となります。
6. フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
7. 万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、速やかに電池を抜き、販売店またはオリンパスサービスステーション（裏面参照）にご相談ください。火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

1. 異臭、異常音、もしくは煙が出たりするなどの異常が生じた場合は、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、最寄りのサービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
2. 本製品の分解、改造はしないでください。感電やけがをする原因となります。
3. 濡れた手で操作しないでください。感電の危険があります。
4. 異常に温度が高くなるところに置かないでください。部品が劣化したり、火災の原因となります。

ご使用の前に

お取り扱いについて

●本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で本製品を使用または保管した場合、動作不良や故障の原因となりますので絶対に避けてください。

・直射日光下や夏の海岸など
・高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
・砂、ほこり、ちりの多い場所
・火気のある場所
・冷暖房器、加湿器のそば
・水に濡れやすい場所
・振動のある場所
・自動車の中（特に炎天下の車内）

●カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
●レンズを直射日光に向けて放置しないでください。CCDの褪色・焼きつきを起こすことがあります。
●長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
●三脚に取り付ける際、カメラを回さないでください。
●本体の電気接点部には手を触れないでください。
●フラッシュを短時間に何度も発光させると、発光部の温度があがることがありますので、直接手を触れないでください。
●レンズに無理な力を加えないでください。

電池について

●電池は3Vリチウム電池パック(CR-V3)1個または単3ニッケル水素電池2本を使用します。付属のオリンパス製3Vリチウム電池パックLB-01をおすすめします。（3Vリチウム電池パックは充電できません。）
●単3アルカリ電池、単3マンガン電池、単3リチウム電池は使用できません。
●電池は正しく使いましょう。誤った使い方は液漏れ・発熱・破損の原因となります。交換するときは、＋－の向きに注意して正しく入れてください。
●電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
●電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

ご使用の前に（つづき）

●長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。

●ニッケル水素電池およびニッカド電池を使用の場合は、必ず電池で指定された充電器で完全に充電してからお使いください。

●ニッケル水素電池およびニッカド電池をご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。ニッカド電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。

●シール（絶縁被覆）をすべて剥がしている電池（裸電池）は、危険ですので絶対にご使用にならないでください。

●ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲

放電（機器使用時）：０℃～４０℃

充電：０℃～４０℃

保存：－２０～３０℃

上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。

液晶画面とバックライトについて

●本製品の液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライト及びコントロールパネルには寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（保証期間外の修理は有料となります。）

●一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。

●本製品の液晶画面は精密度の高い技術でつくられていますが**一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。**また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶画面の構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。

目次

目次（つづき）

2 使ってみましょう……29

3 いろいろな機能を使ってみる……51

目次（つづき）

主な特長

- 高画質214万画素CCD(総画素数)で、クラス最高レベルの画像が得られます。
- 携帯電話と接続して、撮影画像を送受信することができます。＊
- 2.5倍デジタルテレモード＊＊での撮影が可能です。（P.67）
- 枚数を気にせず撮影できる、リムーバブルメモリのスマートメディアを採用(パノラマ機能付/P.74)。
- ビデオ出力端子付で、画像のテレビ再生も楽しめます(NTSC方式/P.86)。＊＊＊
- 別売の機能付スマートメディアを使って合成画像も簡単に作れます。（P.15）
- 別売の専用プリンタでダイレクトプリント可能。システムの拡張も楽しめます。（P.92）
- 光学ファインダーに加え、1.8インチ高精細液晶モニタもファインダーとして使えます。（P.38）
- 電池駆動、軽量、コンパクトサイズで携帯性に優れています。
- 書き込み時間の短縮により、シャッターチャンスを逃しません。

＊　　画像の送受信については、別冊の通信機能編取扱説明書をお読みください。
＊＊　デジタルテレモードは標準画質(SQ)モード(VGA/XGA)でのみご使用いただけます。
＊＊＊海外では地域によりご利用になれません。

デジタルカメラを使った楽しみ方

機能付スマートメディアを使えば

オリンパスのスマートメディア(カード)を使えば、通常の記録だけでなく、下記の機能もお楽しみいただけます。

- **パノラマ合成機能（P.74）**
  標準カード(パノラマ合成機能付)(8MB=同梱/8・16・32・64MB=別売)と別売のパソコン用ソフトウェアCAMEDIA Masterを使ってパノラマ合成画像作成

- **合成テンプレート機能**
  テンプレートカードM-4T(4MB=別売)を使って合成画像作成

- **カレンダー機能**
  カレンダーカードM-4C(4MB=別売)を使ってカレンダー画像作成

- **手書きタイトル機能**
  手書きタイトルカードM-4N(4MB=別売)を使ってタイトル入り画像作成

デジタルカメラを使った楽しみ方（つづき）

専用プリンタP-330N／P-330／P-300／P-150(別売)を使えば（P.87）

- パソコンなしでも画像をプリントアウト
- 日付入り印刷も思いのまま
- 機能付スマートメディア(別売)で作った画像をプリントアウト
- 16分割シールペーパープリントも簡単
- 転写プリントで左右反転の印刷にも対応
- P-330N/P-330はカードから、又P-300/P-150はカメラからダイレクトプリントできます。

パソコンを使えば（P.103）

- 同梱のソフトウェアCAMEDIA Com（DOS/V専用）を使って、データを加工・保存・プリントアウトしたり、通信の機能を使うことができます。なお、通信の設定を行うには、別売のPCカードアダプタ（MA-2）やフロッピーディスクアダプタ（MAFP-2/2N)、スマートメディア・リーダ/ライタ（MAUSB-2）をお使いください。

その他にも

- 携帯電話に接続しての通信以外にも、通信アダプタT-100HS(別売)にモデムカードを組み合わせて、一般回線電話から画像を転送できます。
- テレビに接続して、大きい画面で画像を見ることができます。

CAMEDIA

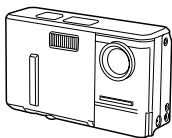
1

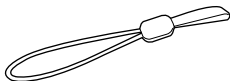
準備をしましょう

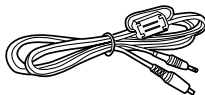
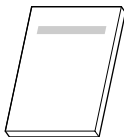
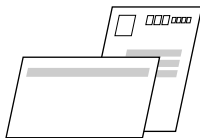
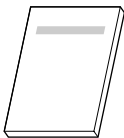
OLYMPUS DIGITAL CAMERA

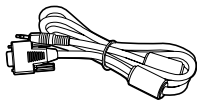
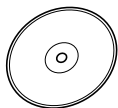
箱の中を確認しましょう

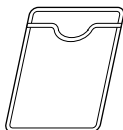
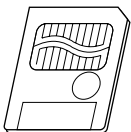
箱の中の付属品はすべてそろっていますか。
万一、付属品が不足していたり、破損している場合はお買上げ販売店までご連絡ください。

カメラ本体

カメラケース

ストラップ

3Vリチウム電池パック : LB-01(1個)

ビデオケーブル

取扱説明書（本書）

保証書／ご愛用者登録はがき

取扱説明書（通信機能編）

CAMEDIA Com ソフトウェア（インストールマニュアル含む）

DOS/V用パソコン接続ケーブル

8MB スマートメディア※（1枚）

スマートメディア用静電気防止ケース

スマートメディア用ラベル（2枚）

スマートメディア用ライトプロテクトシール（4枚）

スマートメディア取扱説明書

※ あらかじめプロバイダの設定がされていますので、初期化をしないでください。また、事前にバックアップをとることをおすすめします。バックアップの方法は、同梱のソフトウェアCAMEDIA Comのオンラインマニュアルをご覧ください。

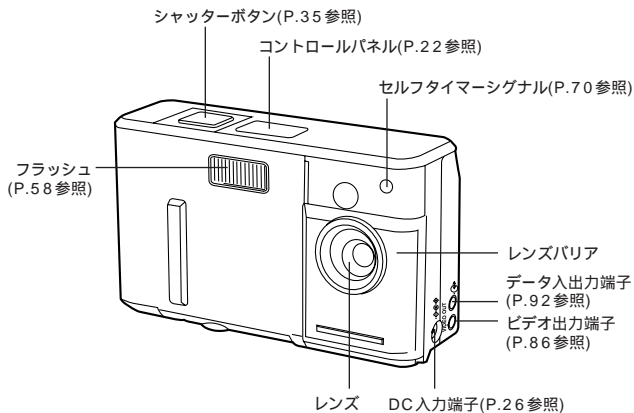
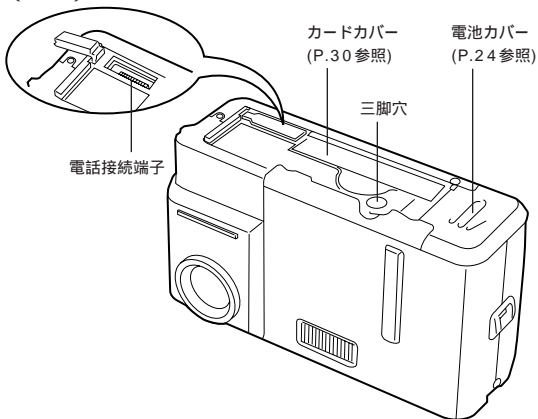
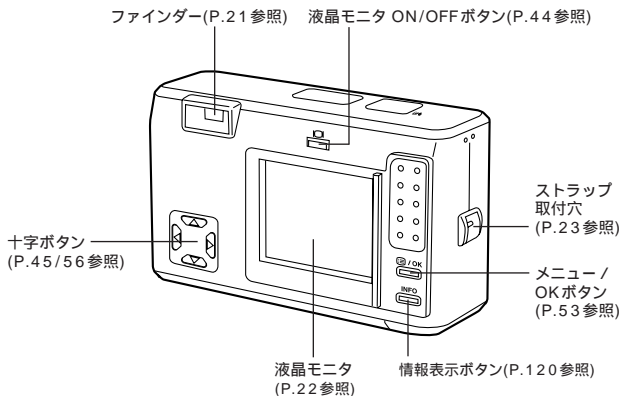
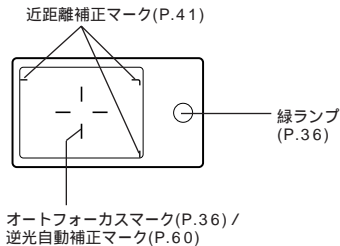
各部の名称

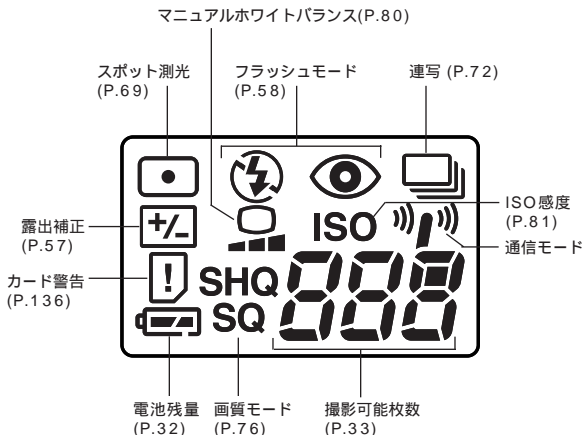
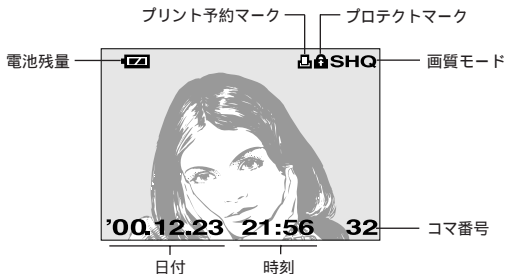
カメラ本体

（底面）

ファインダー(P.21参照)
液晶モニタ ON/OFFボタン(P.44参照)
十字ボタン
(P.45/56参照)
ストラップ取付穴
(P.23参照)
メニュー／OKボタン
(P.53参照)
/ OK
INFO
液晶モニタ
(P.22参照)
情報表示ボタン(P.120参照)

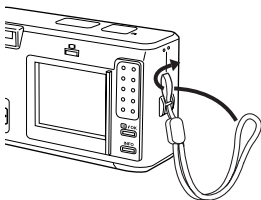
ファインダー

近距離補正マーク(P.41)
緑ランプ
(P.36)
オートフォーカスマーク(P.36)／
逆光自動補正マーク(P.60)

各部の名称（つづき）

コントロールパネル

液晶モニタ

ストラップ・カメラケースを取り付けましょう

カメラ本体にストラップ・カメラケースを取り付けましょう。

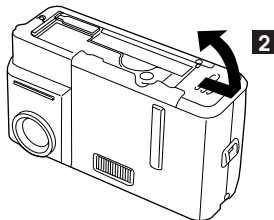
操作方法

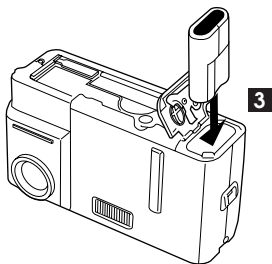
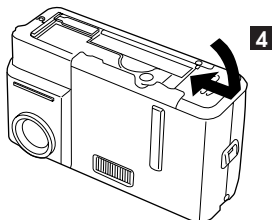
1 カメラ本体のストラップ取付穴に、ストラップを通します。

2 ストラップをカメラケースに通します。

注意 ・上の図にしたがってストラップは正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れて本体を落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。

電池を入れましょう

電池は3Vリチウム電池パック(CR-V3)1個または単3ニッケル水素電池2本を使用します。

操作方法

1. カメラの電源がオフになっている(レンズバリアが閉じていて、コントロールパネル及び液晶モニタが消灯している)ことを確認します。

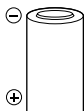
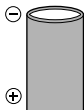
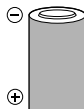
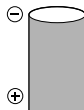
2. 電池カバーを矢印の方向に押して開けます。

3. 図のように電池の向きを正しく合わせて入れます。

4. 電池カバーを矢印の方向に押して閉めます。

注意

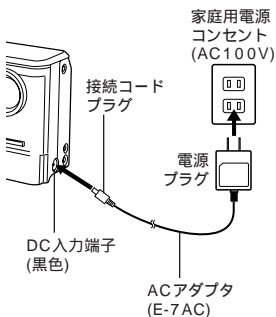
- 単3アルカリ電池、単3マンガン電池、単3リチウム電池は使用できません。電池に関するご注意をお読みください。(P.3/7参照)
- オリンパス製3Vリチウム電池パック(LB-01)のご使用をおすすめします。(リチウム電池パックは蓄電池ではありません。)
- 電池を外した状態で内部をさわらないでください。
- 電池を外した状態で約1時間放置すると、全ての設定は初期設定に戻ります。

⚠警告

外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。

このような形状の電池はご使用になれません

シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの（裸電池）

負極（マイナス面）が平らな電池で、負極の一部がシール（絶縁被覆）で覆われているもの

負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの

負極（マイナス面）が平らな電池で、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの

ACアダプタを使う（別売）

別売の専用アダプタ（E-7AC）を使って、家庭用電源（AC-100V）から電源を確保することができます。

操作方法

1 カメラの電源がオフになっている(レンズバリアが閉じていて、コントロールパネル及び液晶モニタが消灯している)ことを確認します。

2 ACアダプタの電源プラグを家庭用電源コンセントに差し込みます。

3 カメラのDC入力端子に接続コードプラグを接続します。

4 使用後は必ずカメラの電源を切り、接続コードプラグをカメラから抜き、次に電源プラグを家庭用電源コンセントから抜きます。

注意　**・ACアダプタを長時間接続するとACアダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。**

⚠ 警告

火災・感電・やけどのおそれがあります。

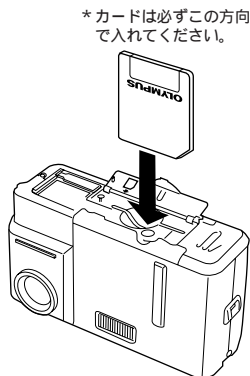
- 専用のACアダプタ（E-7AC）（EIAJ規格・極性統一型プラグ付）以外は絶対に使わないでください。カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。専用以外のACアダプタの使用により生じた障害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。
- 電源は必ずAC100Vをご使用ください。
- ACアダプタプラグの差し込みが不完全な状態で使用しないでください。
- 濡れた手でACアダプタのプラグの抜き差しは絶対にしないでください。
- 万一ACアダプタやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出るなどの異常が発生した場合、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて使用を中止してください。また、ただちに販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
- ACアダプタを抜き差しする際は、必ずカメラの電源が切れていることを確認してください。
- ACアダプタをコンセントから抜くときは、必ずACアダプタの電源プラグを持って抜いてください。ACアダプタのコードを無理に引っ張ったり、折り曲げたり、ねじったり、継ぎ足したりすることは絶対にやめてください。
- ACアダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があったりした場合は、すぐにお買い上げの販売店にご相談ください。
- 使用しないときは、必ずACアダプタをカメラ及びコンセントから外してください。
- 別売の専用アダプタ(E-7AC)は日本国内用です。海外ではご使用になれません。

2

使ってみましょう

スマートメディアをセットしましょう

付属のスマートメディアをセットします。

操作方法

1 カメラの電源がオフになっている(レンズバリアが閉じていて、コントロールパネル及び液晶モニタが消灯している)ことを確認します。

2 カードカバーを開けます。

3 スマートメディア(以下カードといいます)を図示の方向に押し込みます。
カードの向きにご注意ください。機能付スマートメディア(別売)を使用する場合も同様に押し込みます。

4 カードカバーを閉めます。

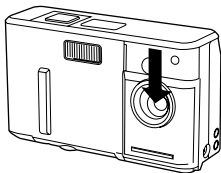
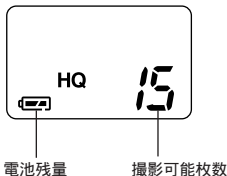
注意

- **デジタルカメラ作動中には、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、電源プラグを抜いたりしないでください。<u>カード内のデータが破壊されることがあります。</u>**
- **破壊されたデータの復旧はできません。**
- **カードは精密機器です。無理な力や衝撃を与えないでください。**
- **カードのコンタクトエリアには直接手を触れないでください。**
- **市販の5Vカードは使用できません。当社カードまたは市販の3V（3.3V）カードをご使用ください。**
- **市販の3V（3.3V）カードをご使用の場合、カメラでの初期化をおすすめします。(P.122参照)**

電源を入れましょう

カードがセットできたら、カメラの電源を入れて、電池残量と撮影可能枚数を確認しましょう。

コントロールパネル

操作方法

1 レンズバリアをカチッと音がするまで下にスライドさせると電源が入り、撮影モードになります。

電源が入ると、自動的にカードチェックが行われます。カードが入っていない時/カードに問題がある時はコントロールパネルのカード警告マークとファインダー横の緑ランプが点滅し、液晶モニタに表示が出ます。(P.136参照)

電話の認識のため、立ち上がるまで数秒かかりますが、シャッターボタンを半押しするとすぐに撮影に入れます。

2 電源が入ると、コントロールパネルに電池残量と撮影可能枚数が表示されます。

注意

- **カードの初期化が必要な場合は、コントロールパネルのカード警告マークが点灯し、初期化モードに入ります。(P.122参照)**
- **レンズ内に指を入れた状態で無理にレンズバリアをスライドさせないでください。故障の原因になる事があります。**

電源を入れましょう（つづき）

電池残量について

カメラの電源が入ると、コントロールパネルに電池残量が表示されます。
電池残量の目安は次のように表示されます。

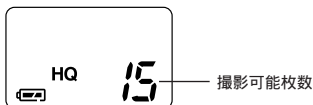
が点灯（自動的に消えます）。
電池の残量は十分です。撮影できます。

が点滅し、コントロールパネルの他の表示は通常通り点灯。
電池の残量が少なくなりました。新しい電池と交換してください。
撮影は可能ですが、途中で電池が切れる恐れがあります。
・電池残量の警告は3Vリチウム電池パック（CR-V3）を基準にしています。単3ニッケル水素電池の場合、早目に点滅します。

が点滅し(12秒後に消灯)、コントロールパネルの他の表示は消灯。
電池の残量がなくなりました。新しい電池と交換してください。

注意
- **長期の旅行、大切な行事、寒冷地での撮影などには予備の電池をご用意になることをおすすめします。**
- **なにも操作をしないまま3分経過すると、パワーセーブ機構が働き、コントロールパネルの表示が消えます。レンズバリアをいったん閉めて再度開くと、表示が再び点灯します。なお、約4時間たつと自動的に電源が切れますが、しばらく撮影しないときはできるだけ電源を切って(レンズバリアが閉じていてコントロールパネル及び液晶モニタが消灯)おいてください。（新品電池をお使いの場合は、電池の種類によりこの時間が長くなる場合があります。）**
- **電池を使用して電池の寿命末期に撮影した場合、撮影後または電源を入れたときに「ピピッ　ピピッ　ピピッ」と連続して警告音が鳴り、コントロールパネルのコマ番号が点滅することがあります。このような場合は撮影が正常に行なわれておりません。新しい電池に交換のうえ再度撮影を行なってください。**

撮影可能枚数について

カメラの電源が入ると、コントロールパネルに撮影可能枚数が表示されます。

・撮影可能枚数が0になると「ピー」という音が鳴り、緑ランプが点滅し、液晶モニタには「CARD FULL」と表示されます。再度電源を入れたときも同じです。(P. 136参照)
・撮影可能枚数は設定画質モードによって変わります。
・画質モードの設定はP.76をご覧ください。

撮影可能枚数

画質モード	標 準		高画質		
	SQ		HQ	SHQ	
画素数	640x480	1024x768	1600x1200		
スマートメディアの記憶容量 / File	JPEG		JPEG	JPEG (低圧縮)	TIFF (非圧縮)
2MB	約30枚	約9枚	約3枚	約1枚	0枚
4MB	約60枚	約19枚	約7枚	約3枚	0枚
8MB	約122枚	約38枚	約15枚	約7枚	約1枚
16MB	約244枚	約78枚	約32枚	約16枚	約2枚
32MB	約489枚	約156枚	約64枚	約32枚	約5枚
64MB	約979枚	約312枚	約128枚	約64枚	約11枚

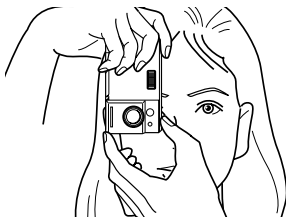
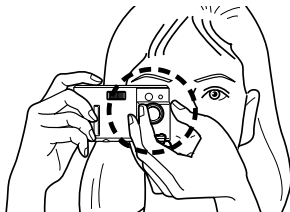
注意
- **撮影毎にカウンタが減らなかったり、1コマ消去しても増えない場合があります。**
- **撮影対象によりデータ量が異なる為、撮影可能枚数よりも多く撮影できることがあります。**
- **撮影前に日時を設定しておきましょう。(P.118参照)**

撮影しましょう

電源を入れて、撮影の準備ができたら、さっそく撮影をしてみましょう。

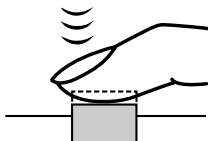
カメラの構え方

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。

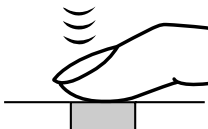
よこ位置　　**たて位置**

悪い例

注意
- **レンズに無理な力を加えないでください。**
- **レンズ、フラッシュに指やストラップがかからないようにご注意ください。**

シャッターボタンの押し方

シャッターボタンの押し方には2つのステップがあります。
撮影を始める前に練習しましょう。

軽く押した状態（半押し）

シャッターボタン

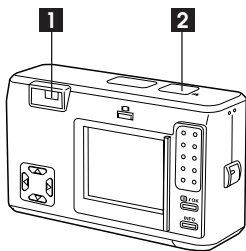
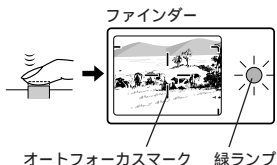
・ピントと露出が固定されます。
・ファインダー横の緑ランプが点灯します。

「半押し」した状態をさらに押し込む（押し切り）

・撮影が行われピピッと音がします。
・カードへの書込中はファインダー横の緑ランプが点滅します。

注意
・シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、写真がぶれる原因になります。
・シャッターボタンを半押しした時にファインダー横の緑ランプが点滅した場合は、ピント、露出が固定されていません。いったん指を離し、再度シャッターボタンを押してください。

撮影しましょう（つづき）

光学ファインダーを使った撮影のしかた

操作方法

1 **ファインダーをのぞき、構図を決めます。**
ファインダーのオートフォーカスマーク中央に被写体を入れます。

2 **シャッターボタンを半押しするとピントと露出が固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。**

3 **そのままシャッターボタンを押し切ります。**

4 **「ピピッ」と音が鳴れば撮影完了です。**

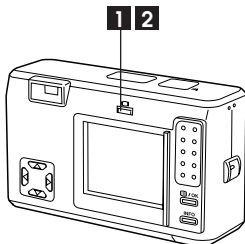
5 ファインダー横の緑ランプの点滅が終わると、次の撮影に入れます。

緑ランプの点滅は、画像を処理していることを表しています。ランプの点滅中にシャッターボタンを押してもシャッターは切れません。(緑ランプの点滅時間は画質モード等により異なり、約2～43秒以内に終わります。)

注意
- **緑ランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊される恐れがあります。**
- **シャッターボタンを半押しして緑ランプが点滅しているときは、ピントが固定されていません。撮影距離を確認してください。****（P.41参照）**
- **構図よりもやや広い範囲が撮影されます。**

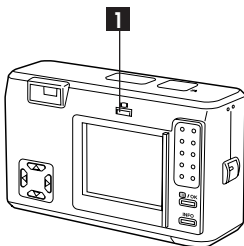
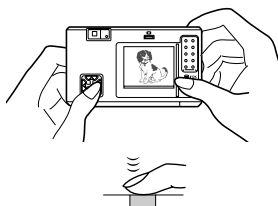
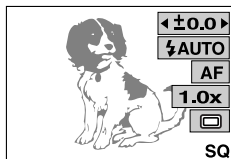
確認再生

撮影した内容をすぐに見たいときに使用します。

操作方法

1 レンズバリアを開いた状態で液晶モニタON/OFFボタンをすばやく2回押すと、再生モードになります。

2 再度液晶モニタON/OFFボタンを押すと、撮影モードに戻ります。

撮影しましょう（つづき）

液晶モニタを使った撮影のしかた

液晶モニタ

操作方法

1 レンズバリアが開いた状態で液晶モニタON/OFFボタンを押して、液晶モニタを点灯させます。

再度ボタンを押すとモニタは消灯します。

2 液晶モニタが点灯すると、撮影メニューが表示されます。

十字ボタンを使って各種機能を設定することができます。

（P.52/56参照）

シャッターボタンを半押しすると、メニューは消えます。

3 液晶モニタを見ながら構図を決めます。

4 ファインダーを使った撮影と同じ手順で撮影してください。

5 撮影後、撮影画像のモニタ表示が消え、現在カメラが捕えている構図が表示されると次の撮影に入れます。

注意
- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。
- 液晶モニタの画像は構図確認のためのもので、ピント・露出等の詳細な状態を表示できるものではありません(ファインダーとして利用時及び、モニタ再生時共に)。特に大切なシーンの撮影では、必ずパソコンの画面で確認をしてください。
- 液晶モニタを使って撮影した場合は使わない時よりも書き込み時間が長くなります。
- 被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見える事がありますが、故障ではありません。
- 晴天下のように明るい場所で撮影した時、わずかに縦スジ(スミア)が入る場合があります。液晶モニタが見にくい場合は、光学ファインダーをお使いください。
- 液晶モニタを見ながらの撮影も可能ですが、ファインダーからのぞくほうがカメラぶれは起こりにくく、楽に撮影ができます。また、ファインダーを使用した方が電池を消耗せず、より長時間の撮影が可能となります。
- 構図よりもやや広い範囲が撮影されます。

撮影しましょう（つづき）

フォーカスロック

ピントを合わせたいものがオートフォーカスマークから外れる（中央にない）場合は、以下の操作でピントを合わせます。これをフォーカスロックといいます。

ファインダー

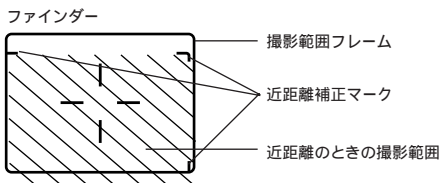
オートフォーカスマーク

操作方法

1 ファインダーをのぞき、撮影したいものにオートフォーカスマークを合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
同時に露出も固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮影したい構図に変えて押し切ります。

撮影距離

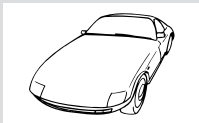
ファインダーの撮影範囲フレームは∞（無限遠）時に写る範囲ですが、撮りたいものまでの距離が近づくにつれて写る範囲が下に移動します。

撮影は 0.15 m ～ ∞ (無限遠）の範囲で行ってください。

・0.15 mより近い距離でもシャッターは切れますが、ピントと露出が合わないことがあります。
・近距離での撮影は、液晶モニタをファインダーとして使用することをおすすめします。撮影する絵がモニタに表示されますので、撮影が容易にできます。
・液晶モニタを使用すると電池消耗が早くなります。

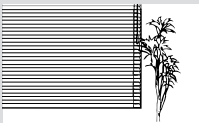
撮影距離

マクロモード	0.15 m ～ 0.6 m (P.66参照)
通常モード	0.6 m ～ ∞

ピントの合いにくいもの (オートフォーカスの苦手な被写体)

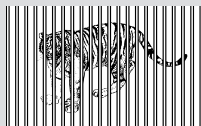
ほとんどの被写体に対してオートフォーカスが可能ですが、以下❶〜❸のような条件ではピントが合わない時があります。また、❹、❺のような被写体では、ファインダー横の緑ランプが点灯し、シャッターが切れてもピントが合っていない時があります。その場合は以下の方法または、プリセットフォーカス(P. 64)で撮影してください。

❶コントラストのない被写体

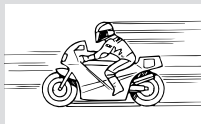
被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロックした後、構図を決めて撮影してください。

❷縦線のない被写体

カメラを縦位置に構えてフォーカスロックした後、構図を横にもどして撮影してください。

❸画面中央に極端に明るいものがある被写体

被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロックした後、構図を決めて撮影してください。

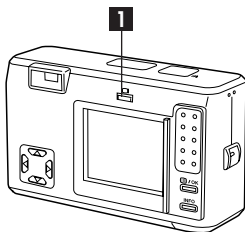
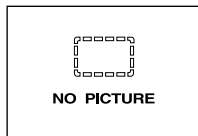
❹遠いものと近いものが混在する被写体

オートフォーカスして緑ランプが点灯しても撮影したい被写体がぼけているときは、同じ距離にあるものでフォーカスロックしてから構図を決めて撮影してください。

❺動きの速い被写体

あらかじめ撮影したい被写体と同じ距離にあるものでフォーカスロックしてから、構図を決めて撮影してください。

再生しましょう

撮影した画像を液晶モニタで再生することができます。
１コマ再生のほかに、インデックス再生や拡大再生もできます。

画像を再生しましょう（1コマ再生）

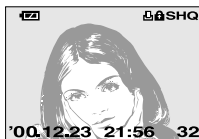
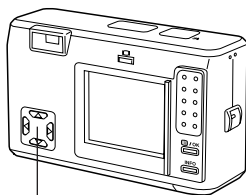
液晶モニタに１コマだけ画像を表示します。

液晶モニタ

操作方法

1 レンズバリアを閉じた状態で液晶モニタON/OFFボタンを押すと電源が入り、再生モードになります。

電源が入ると、自動的にカードチェックが行われます。カードが入っていない時／カードに問題がある時は、コントロールパネルのカード警告マークが点滅します。
フォーマットが異なるカードが入っている時は、自動的に初期化モードに入ります。(P.122参照)
電話の認識のため、立ち上がるまで数秒かかりますが、液晶モニタON/OFFボタンをダブルクリックするとすぐに再生モードに入れます。

2 撮影された最新の画像が表示されます。

一枚も撮影されていない場合は、液晶モニタに「NO PICTURE」の表示が出ます。

液晶モニタには画像の他に、コマ番号、画質モード、電池残量マークが表示されます。また設定を行っている場合は、プロテクト、日時も同様に表示されます。
電池残量マークは3秒たつと消灯します。電池残量が残り少ない場合は、電池残量警告のマークが点滅します。

3 十字ボタンの ◁ ▷ を押して画像を選択します。

◁：1コマ前の画像を表示します。

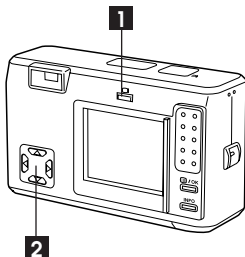
▷：次の画像を表示します。

使ってみましょう

注意
- **電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、0.5〜2秒程してから画像が表示されるのは故障ではありません。**
- **液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。**

再生しましょう（つづき）

画像をインデックス再生しましょう

画像をインデックス表示させることができます。
画像を探す時に便利です。

液晶モニタ

操作方法

1 液晶モニタをONにします。

2 十字ボタンの ▽ を押して、インデックス表示にします。
再生に2秒程時間がかかります。

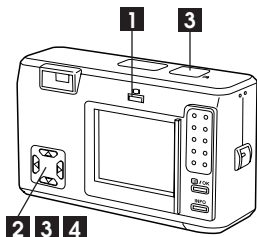
3 十字ボタンの ◁ ▷ を押して選択枠を移動させることができます。
◁: 左へコマ移動します。
▷: 右へコマ移動します。

4 十字ボタンの △ ▽ を押すと、1コマ再生にもどります。

メモ **・表示コマ数は4、9、16コマの中から選べます。(P.124参照)**

使ってみましょう

画像を拡大して再生しましょう(クローズアップ再生)

画像を拡大して表示させることができます。

液晶モニタ

3角指標

操作方法

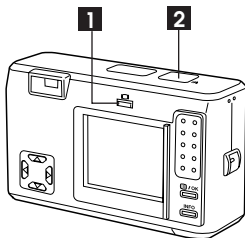
1 **液晶モニタに拡大したい画像を表示させます。**

2 **十字ボタンの △ を押すたびに、1.5倍、2倍、2.5倍、3倍に拡大されます。**
十字ボタンの ▽ を押すと、1倍に戻ります。

3 **シャッターボタンを押すと、画面に3角指標が表示されます。シャッターボタンを押しながら十字ボタンを押すと、選択範囲を移動させることが出来ます。**

4 **選択画像を変えるには、十字ボタンの ◁ ▷ を押してください。**

画像にプロテクトをかけましょう

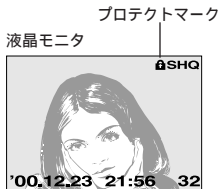
残しておきたい画像にプロテクト(消去禁止)をかけます。

操作方法

1 液晶モニタに残しておきたい画像を表示させます。

2 シャッターボタンを押すと、その画像にプロテクトがかかります。

液晶モニタにプロテクトマークが表示されます。

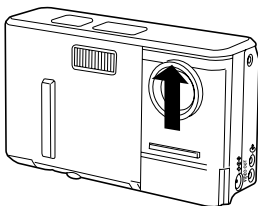
プロテクトを解除するには、その画像が表示された状態で再度シャッターボタンを押します。

＊インデックスディスプレイモード（P.46）、クローズアップ再生モード（P.47）でも、プロテクトの設定、解除ができます。

・プロテクトされた画像は全コマ消去しても消されることはありませんが、初期化すると消滅します。

・ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには、プロテクト操作は一切できません。

電源を切りましょう

これで、一通りの操作が終わりました。
ここで操作を終える場合は、電源を切ります。

操作方法

1 レンズバリアを閉じます。
液晶モニタが消灯します。
再生モードの時は、液晶モニタをOFFにします。

2 ACアダプタを使用している場合は、最初にカメラから抜き、次にコンセントから抜きます。

注意
- **緑ランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊される恐れがあります。**
- **電源を切ったり電池の交換を行っても、撮影した画像は保存されます。**

CAMEDIA

3

いろいろな機能を使ってみる

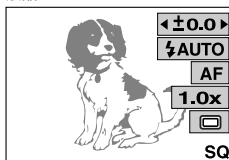
OLYMPUS DIGITAL CAMERA

メニュー

メニューの種類

ここでは表示されるメニューを紹介します。
撮影モード時、再生モード時、ダイレクトプリントモード時では、表示されるメニューが異なります。

[撮影メニュー]

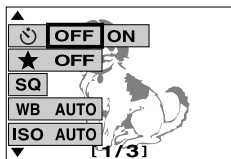
①(レンズバリアが開いている状態で、液晶モニタ ON/OFFボタンだけを押した時)

◀±0.0▶ ･･･露出の補正が可能です。(P.57)

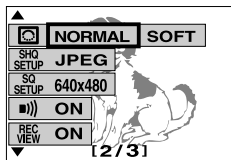
AUTO ････フラッシュのモードを選択。(P. 58〜P.63)

AF ･･････････マクロモード(P.66)、プリセットフォーカス(P.64)使用時に。

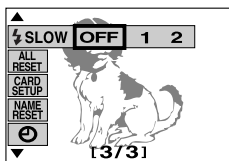
1.0x ･･･････デジタルテレモード使用時に。(P.67)

▭ ･･････････測光モードを選択。(P.68)

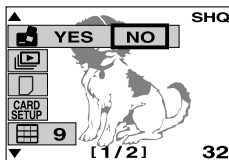
②(レンズバリアが開いている状態で、液晶モニタ ON/OFFボタンとメニュー/OKボタンを押した時)

1ページ目

- (セルフタイマー) ………セルフタイマー使用時に。(P.70)
- ★ ………連写(P.72)、カード機能(P.74)使用時に。
- SQ ………画質モードを設定。(P.76)
- WB ………ホワイトバランスを設定。(P.80)
- ISO ………感度を設定。(P.81)

2ページ目

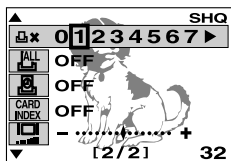
- (シャープネス) ………画像の鮮鋭度を選択。(P.82)
- SHQ SETUP ………画質モードSHQを非圧縮(TIFF)に設定。(P.78)
- SQ SETUP ………画質モードSQの画像サイズを設定。(P.79)
- (音) ………音を出す、出さないを設定。(P.114)
- REC VIEW ………撮影後、記録画像の表示の有無を設定。(P.115)

メニュー（つづき）

3ページ目

- SLOW ･････････夜景が撮影できます。（P.71）
- ALL RESET ･････････設定を初期設定に戻します。（P.116）
- CARD SETUP ･････････カードを初期化する時に。（P.122）
- FILE NAME ･････････ファイルネームの記録方法を設定。（P.117）
- ･････････日時を設定。（P.118）

[再生メニュー]
(レンズバリアが閉じていて、プリンタに接続していない状態で、液晶モニタON/OFFボタンとメニュー/OKボタンを押した時)

1ページ目

- ･････････画像の1コマ消去時に。（P.84）
- ･････････画像を自動送りで見られます。（P.83）
- ･････････機能付スマートメディア使用時に。
- CARD SETUP ･････････画像の全コマ消去及びカードの初期化時に。（P.85/122）
- ･････････インデックス再生時の表示コマ数を設定。（P.124）

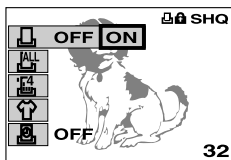
ALL

……… プリント予約の印刷部数を設定。（P.88）

……… 全コマプリント予約。（P.89）

……… 日付プリント予約。（P.90）

CARD INDEX ……… インデックスプリント予約。（P.91）

……… 液晶モニタの明るさを調節。（P.125）

[ダイレクトプリントメニュー]
(レンズバリアが閉じていて、プリンタに接続している状態で、液晶モニタON/OFFボタンとメニュー/OKボタンを押した時)

……… 1コマプリントしたい時に。（P.96）

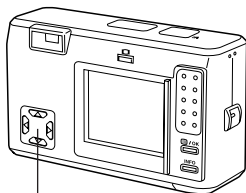
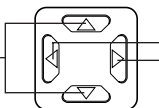
……… 全コマプリントしたい時に。（P.98）

……… 4分割/16分割プリントが作れます。（P.99）

……… Tシャツプリントが作れます。（P.101）

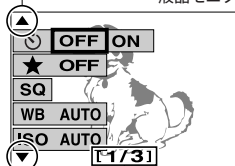
……… 日付をプリントしたい時に。（P.102）

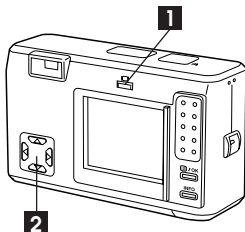
メニュー（つづき）

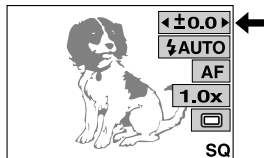
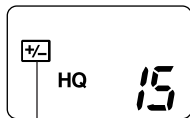
メニューの操作方法

メニューで各機能を設定します。

操作方法

1 十字ボタンの △ ▽ を押して、項目を選択します。

次の画面がある場合は、メニューの 下に▼ が表示されます。前の画面がある場合はメニューの上に▲ が表示されます。
十字ボタンの △ ▽ を押して画面をスクロールすることができます。

2 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、設定を選択します。

露出補正

露出は撮影時に自動的にセットされますが、+/−2段の範囲で約1/3段刻みの補正が可能です。
白の多い被写体には+の、黒の多い被写体には−の補正を入れると効果的です。

操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにすると、「◀±0.0▶」が選択されます。

2 液晶モニタを見ながら十字ボタンの ◁ ▷ を押して、補正値を選択します。▷ を押すと（+）に、◁ を押すと（−）に補正されます。

0以外の設定をすると、コントロールパネルに露出補正マークが表示されます。

コントロールパネル

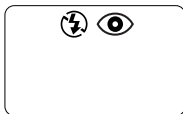
露出補正マーク

3 撮影します。

注意

- **撮影後も設定は保存されますが、レンズバリアを閉じると解除されて0に戻ります。**
- **露出補正をすると液晶モニタの明るさも変わりますが、うす暗い被写体では変化しにくくなります。その時は撮影画像を再生してご確認ください。**
- **フラッシュ撮影時は狙いどおりの補正ができない場合があります。**

フラッシュ撮影

撮影状況・目的に合わせてフラッシュモードをお選びください。
オート発光以外を選択すると、フラッシュモードがコントロールパネルに表示されます。

- **オート発光（P.60）表示なし**
  暗い時や逆光の時、自動的に発光します。

- **赤目軽減発光 （P.61）**
  目が赤く写ってしまう現象を軽減します。

- **強制発光 （P.62）**
  必ず発光させたい時に。

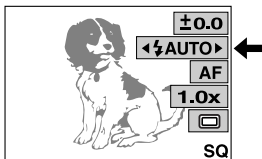
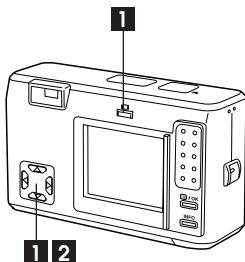
- **発光禁止 （P.63）**
  暗いところでも発光させたくない時に。

フラッシュ撮影可能範囲

0.2 m 〜 4.4 m

注意
- **緑ランプが点滅している時は、フラッシュ充電中のためシャッターが切れません。いったんシャッターボタンから指を離し、数秒待ってから撮影してください。**
- **マクロモードでのフラッシュ撮影は、明暗部分がでやすくなるのでご注意ください。(P.66参照)**
- **連写モード及びパノラマモードではフラッシュはご使用になれません。**

フラッシュモードの切り替え方

フラッシュモードを切り替えます。

操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてから十字ボタンの△▽を押して行き、「◀⚡AUTO▶」を選択します。

液晶モニタがOFFの時は、メニュー/OKボタンを押してコントロールパネルをご覧ください。十字ボタンの◁▷を押して選択します。

2 十字ボタンの◁▷を押して行き、
「⚡AUTO (オート発光)」(P.60)、
「◉ (赤目軽減発光)」(P.61)、
「⚡ (強制発光)」(P.62)、
「⊘ (発光禁止)」(P.63)、
の中から選択します。

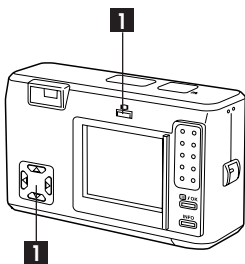
注意 ・撮影後も設定は保存されますが、レンズバリアを閉じると赤目軽減発光以外の設定は解除されてオート発光に戻ります。

フラッシュ撮影（つづき）

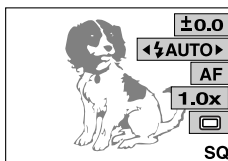
オート発光

暗い時や逆光の時、フラッシュが自動的に発光します。

ファインダー

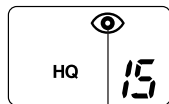
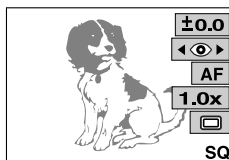
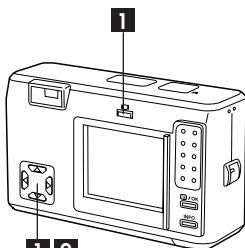
逆光の被写体を撮影するときは、被写体を逆光自動補正マークに合わせて撮影してください。

操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてから十字ボタンの △ ▽ を押して行き、「◂ϟAUTO▸」を選択します。

液晶モニタがOFFの時は、メニュー/OKボタンを押してコントロールパネルをご覧ください。十字ボタンの ◁ ▷ を押して選択します。

2 「◂ϟAUTO▸」を選択します。

3 撮影します。

赤目軽減発光

目が赤く写る現象を軽減します。
本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。予備発光をする以外はオート発光と同じです。

操作方法

1. **撮影モードで液晶モニタをONにしてから十字ボタンの △ ▽ を押して行き、「◀⚡AUTO▶」を選択します。**
   液晶モニタがOFFの時は、メニュー/OKボタンを押してコントロールパネルをご覧ください。十字ボタンの ◁ ▷ を押して選択します。
2. **十字ボタンの ◁ ▷ を押して行き、「◀◉▶」を選択します。**
3. **撮影します。**

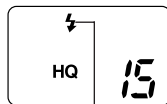
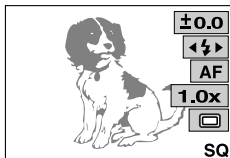
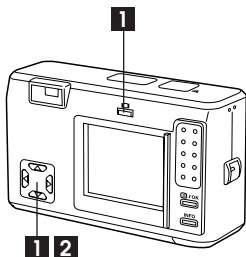
注意
- **シャッターが切れるまで約1秒かかりますので、カメラをしっかり構えてください。**
- **フラッシュを正面から見ていない場合、予備発光を見ていない場合、被写体までの距離が遠い場合や、個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。**
- **電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

フラッシュ撮影（つづき）

強制発光

必ず発光させたいときに。

強制発光モードはフラッシュを常に発光させるモードです。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときなどに使います。

コントロールパネル

HQ　15

強制発光マーク

1

1 2

操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてから十字ボタンの△▽を押して行き、「◀⚡AUTO▶」を選択します。

液晶モニタがOFFの時は、メニュー/OKボタンを押してコントロールパネルをご覧ください。十字ボタンの◁▷を押して選択します。

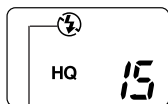
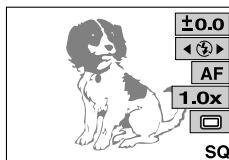
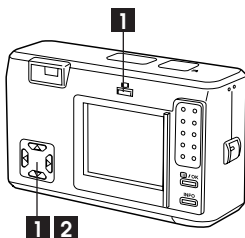
2 十字ボタンの◁▷を押して行き、「◀⚡▶」を選択します。

3 撮影します。

注意
- **フラッシュ撮影可能範囲(P.58)内で撮影してください。**
- **かなり明るい状況下では効果があらわれにくくなります。**
- **レンズバリアを閉じると、設定は解除されてオート発光に戻ります。**

発光禁止

暗いところでも発光させたくない時に。

このモードでは暗くてもフラッシュは光りません。フラッシュを使えない美術館や夕景、夜景などで撮影するときに使います。

操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてから十字ボタンの△ ▽を押して行き、「◀⚡AUTO▶」を選択します。

液晶モニタがOFFの時は、メニュー/OKボタンを押してコントロールパネルをご覧ください。十字ボタンの◁ ▷を押して選択します。

2 十字ボタンの◁ ▷を押して行き、「◀⊛▶」を選択します。

3 撮影します。

注意
- シャッタースピードが最長1/2秒まで延長されますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。動く被写体はぶれて写ります。
- レンズバリアを閉じると、設定は解除されてオート発光に戻ります。

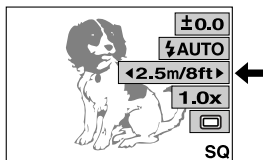
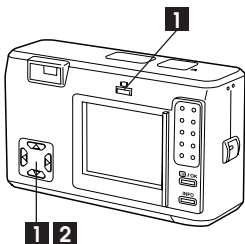
プリセットフォーカス

被写体との距離に応じて撮影距離をワンタッチで選択できます。素速く被写体にピントを合わせ、ピンぼけを防ぐことができます。

操作方法

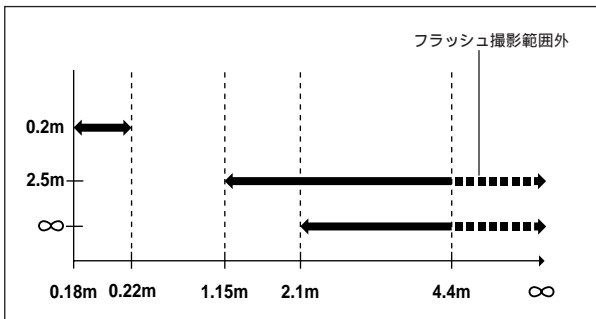
1 撮影モードで液晶モニタをONにしてから十字ボタンの△ ▽を押して行き、「◀AF▶」を選択します。

2 十字ボタンの ◁ ▷ を押して行き、「0.2m」、「2.5m」、「∞(無限遠)」の中から選択します。
「AF」を選択すると、プリセットフォーカスは解除されます。

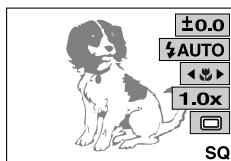
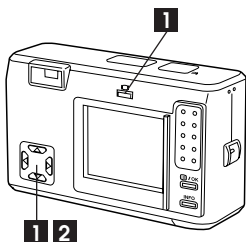
3 撮影します。

注意
- **撮影後も設定は保存されますが、液晶モニタをOFFにしたりレンズバリアを閉じると解除されて通常のオートフォーカスに戻ります。**
- **フラッシュ使用時は、フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。**

プリセットフォーカス合焦範囲の目安

プリセットフォーカスの合焦範囲の目安を距離別に表示します。撮影、設定の参考にしてください。(点線はフラッシュ撮影範囲外です。)

絞り開放、ISO100の時

マクロモード

近くにあるものを撮影するときに使います。
9 X 13cmの被写体に15cmの距離まで近づいて撮影することができます。

操作作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてから十字ボタンの△ ▽を押して行き、「◀AF▶」を選択します。

2 十字ボタンの ◁ ▷ を押して行き、「◀ ▶」を選択します。
「AF」を選択すると、マクロモードは解除されます。

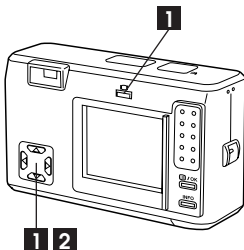
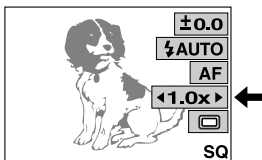
3 撮影します。

撮影距離　約0.15m～0.6m

注意
- **撮影後も設定は保存されますが、レンズバリアを閉じると解除されて通常モードに戻ります。**
- **フラッシュ使用時には影が目立つ場合があります。**
- **マクロモード時、液晶モニタOFFで撮影後、モニタは自動的にONになります。**
- **マクロモード時は、液晶モニタをファインダーとして使用することをおすすめします。**

デジタルテレモード

2.5倍の望遠で撮影ができます。

操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてから十字ボタンの△▽を押して行き、「 1.0x 」を選択します。

2 十字ボタンの◁▷を押して行き、「1.0x(1倍)」、「1.6x(1.6倍)」、「2.0x(2倍)」、「2.5x(2.5倍)」の中から選択します。

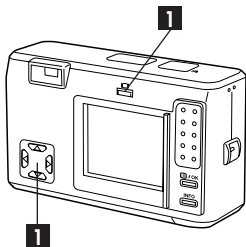
3 撮影します。

注意
- 撮影後も設定は保存されますが、液晶モニタをOFFにしたりレンズバリアを閉じると解除されて1倍に戻ります。
- 標準画質(SQ)モードでのみご使用いただけます。(自動的にSQモードに設定されます。)
- SQモード(XGA)では、「2倍」「2.5倍」のときの記録時間が長くなり、画質が粗くなることがあります。(P.79参照)

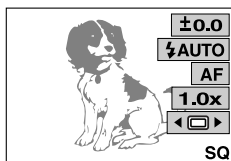
測光モードの設定

撮影する被写体の明るさを測って撮影します。
このカメラではデジタルESP測光とスポット測光の2種類の測光方法があり、あらかじめデジタルESP測光の測光方法に設定されています。

デジタルESP測光

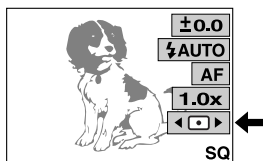
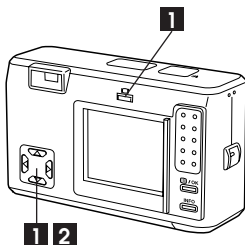
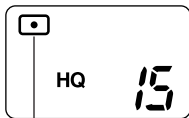
構図の中央部と周辺部を別々に測光し、最適な露出を選択します。

操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてから十字ボタンの△▽を押して行き、「◀▭▶」を選択します。

液晶モニタがOFFの時は、メニュー/OKボタンを押してコントロールパネルをご覧ください。十字ボタンの△▽◁▷を押して選択します。

2 「◀▭▶」を選択します。

3 撮影します。

スポット測光

逆光などで被写体が暗くなる時に、背景の光などに影響されることなく、被写体を適正露光で撮影できます。

コントロールパネル

スポット測光マーク

操作作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてから十字ボタンの△ ▽を押して行き、「◀ ▭ ▶」を選択します。

液晶モニタがOFFの時は、メニュー/OKボタンを押してコントロールパネルをご覧ください。十字ボタンの△ ▽ ◁ ▷ を押して選択します。

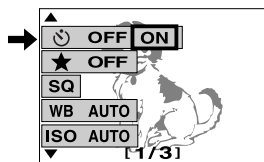
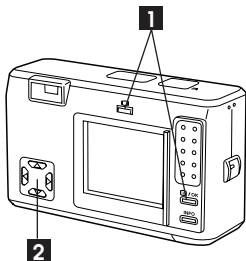
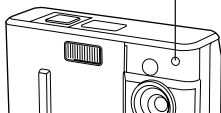
2 十字ボタンの ◁ ▷ を押して「◀ ⊡ ▶」を選択します。

コントロールパネルにスポット測光マークが表示されます。
「▭」を選択すると、スポット測光は解除されます。

3 撮影します。

注意 ・撮影後も設定は保存されますが、レンズバリアを閉じると解除されてデジタルESP測光に戻ります。

セルフタイマー

セルフタイマーを使って撮影ができます。記念写真などを撮影する時に便利です。
カメラを三脚などにしっかりと固定させてください。

セルフタイマーシグナル

操作方法

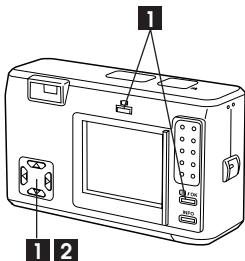
1 撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押すと、「 OFF ON 」が選択されます。

2 十字ボタンの ◁ ▷ を押して「ON」を選択します。
再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。この時、液晶モニタの下にセルフタイマーマークが表示されます。

3 撮影します。
カメラ前面のセルフタイマーシグナルが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後にシャッターが切れます。
作動中のセルフタイマーを途中で止めるには、シャッターボタンを半押しします。

注意
- **セルフタイマーとカード機能を一緒にお使いになる場合は、メニューでセルフタイマーを設定してからカード機能（ ）を設定してください。**
- **撮影後も設定は保存されますが、レンズバリアを閉じるとセルフタイマーは解除されます。**
- **連写モードは自動的に解除されます。**

スローシンクロ

スローシャッターで周囲の状況を捉え、最初または最後にフラッシュを発光させます。夜間撮影に便利です。

操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの △ ▽ を押して行き、「SLOW OFF 1 2」を選択します。

2 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「1(先幕シンクロ効果)」か「2(後幕シンクロ効果)」かを選択します。

1を選択すると、撮影の最初にフラッシュが発光します。走行中の自動車を撮影した場合、テールランプの光が走行方向に流れて撮影されます。

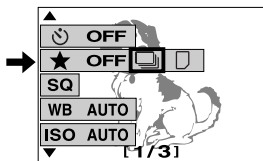
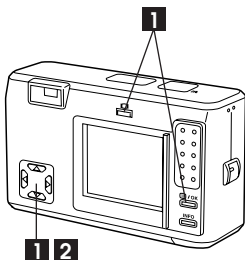
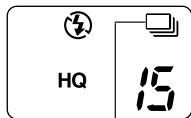
2を選択すると、撮影の最後にフラッシュが発光します。走行中の自動車を撮影した場合、テールランプの光が尾をひいて撮影されます。

再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。

3 撮影します。

注意
- **撮影後も設定は保存されますが、液晶モニタをOFFにしたりレンズバリアを閉じるとスローシンクロは解除されます。**
- **2を選択すると、プリ発光と本発光の2回発光します。**
- **フラッシュ撮影可能範囲（P. 58）内で撮影してください。**

連写モード

動いている被写体を撮影するときなどに適しています。
SQモードで液晶モニタOFFの時、毎秒約1.5コマで約45コマの連続撮影ができます。(HQモードでは毎秒約1コマで約5コマ。画像ファイルの大きさにより変化します。)

コントロールパネル

連写マーク

操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの△ ▽を押して行き、「★ OFF」を選択します。

液晶モニタがOFFの時は、メニュー/OKボタンを押してコントロールパネルをご覧ください。十字ボタンの△ ▽ ◁ ▷を押して選択します。

2 十字ボタンの◁ ▷を押して行き、「」を選択します。

コントロールパネルに連写マークが表示されます。
再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。この時、液晶モニタの下に連写マークが表示されます。

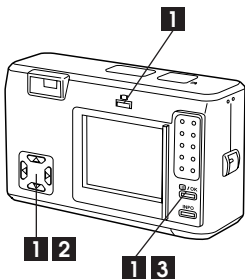
3 撮影します。

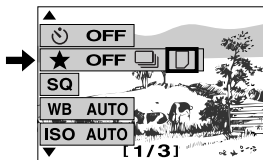
連写モードを解除するには、メニューで「OFF」を選択してメニュー／OKボタンを押します。

注意

- 連写モードでは、フラッシュ及びセルフタイマーはご使用になれません。
- 撮影後も設定は保存されますが、レンズバリアを閉じると連写モードは解除されます。
- 標準画質モード(SQ)及び高画質モード(HQ)でご使用いただけます。
- シャッタースピードはカメラぶれを抑えるため最長1／30秒に設定されているため、暗い被写体では通常より暗く写る場合があります。
- 撮影後、画像の記録にSQモードで最長約75秒(45コマ分)、HQモードで約38秒(5コマ分)かかります。

パノラマモード

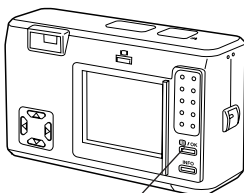
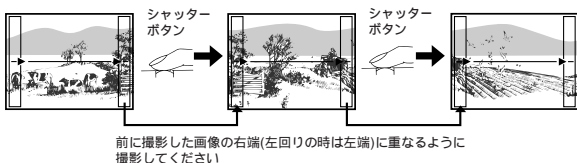
オリンパスの標準スマートメディア(カード)にはパノラマモードが付いており、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。
被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を別売のパソコン用ソフトウェアCAMEDIA Masterでつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成します。

操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの△ ▽を押して行き、「★ OFF ▭ ▯」を選択します。

2 十字ボタンの◁ ▷を押して行き、「▯」を選択します。
キャンセルする場合は「OFF」を選択します。

3 メニュー/OKボタンを押してから、十字ボタンでつなげる方向を上下左右4方向に指定します。
モニタ画面に表示が出ます。

4 **被写体の端が重なるようにして撮影します。**

最大10枚までのパノラマ撮影が可能です。

前に撮影した画像の右端(左回りの時は左端)に重なるように撮影してください

5 **再度メニュー/OKボタンを押すと、パノラマモードは解除されてメニューモードから抜けます。**

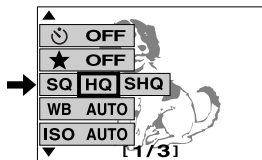
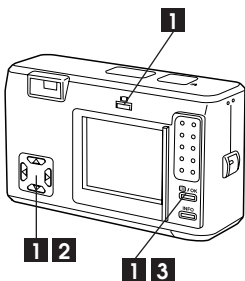
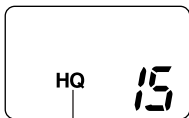
注意

- **標準カード以外のカードでは、パノラマモードは使えません。**
- **セルフタイマーと一緒にお使いになる場合は、メニューでセルフタイマーを設定してからパノラマモードを設定してください。**
- **液晶モニタをOFFにしたりレンズバリアを閉じると、パノラマモードは解除されます。**
- **パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は別売ソフトウェアのCAMEDIA Masterをご使用ください。**
- **ピント・露出・ホワイトバランスとも1枚目で決定されます。1枚目に太陽を入れた撮影などをしないでください。**
- **高画質モードで多量のパノラマ撮影を行うとパソコンのメモリ不足になることがありますので、標準画質(SQ)モードでの撮影をおすすめします。**
- **パノラマモードでは、フラッシュはご使用になれません。**
- **TIFF(非圧縮)でパノラマ撮影をすると、JPEG(圧縮)で記録されます。**

画質モードの設定

撮影する画像の画質（クォリティ）を選択します。

SQ／HQ／SHQを設定

画質の種類は「SHQ（スーパー高画質）」「HQ（高画質）」「SQ（標準画質）」の3種類があります。
画質は「SQ」→「HQ」→「SHQ」の順に高画質になります。

コントロールパネル

画質モード

操作方法

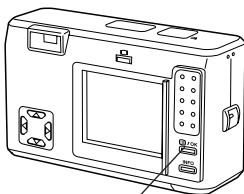
1 撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの △ ▽ を押して行き、「 SQ HQ SHQ 」を選択します。

液晶モニタがOFFの時は、メニュー/OKボタンを押してコントロールパネルをご覧ください。十字ボタンの △ ▽ ◁ ▷ を押して選択します。

2 十字ボタンの ◁ ▷ を押して行き、「SQ」、「HQ」、「SHQ」の中から選択します。

コントロールパネルに画質モードが表示されます。

SQモードは、VGA (640 x 480ピクセル)とXGA (1024 x 768ピクセル)から選択できます。(P.79参照)

SHQモードは、JPEG(圧縮)とTIFF(非圧縮)から選択できます。(P.78参照)

3 **再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。**

高画質モード　HQ/SHQ (JPEG/TIFF)

記録画素数	1600 X 1200ピクセル

標準画質モード　SQ

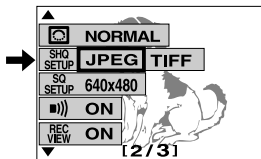
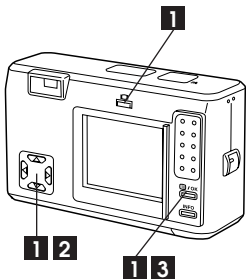
記録画素数	640 X 480ピクセル (VGA) 1024 X 768ピクセル (XGA)

注意

- **電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまで保存されます。**
- **画質の設定によって撮影可能枚数が変わります。(P.33参照)**
- **HQとSHQの記録画素数は共に同じですが、SHQの方が圧縮率が低いため、引き伸ばしたときの画像がきれいです。また、SHQの方が記録・再生時間がやや長くなります。**

画質モードの設定（つづき）

SHQの画像タイプ(JPEG/TIFF)を設定

画質でSHQを選択した場合、保存するファイルのタイプを圧縮(JPEG)または非圧縮（TIFF）に設定することができます。

操作方法

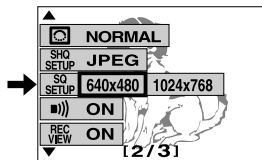
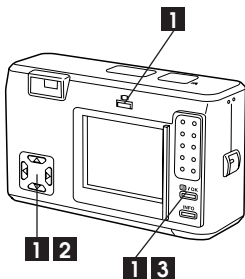
1 撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの △ ▽ を押して行き、「SHQ SETUP JPEG TIFF」を選択します。

2 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「JPEG」（圧縮）か「TIFF」（非圧縮）かを選択します。
TIFFを選択すると、コントロールパネルのSHQ表示が点滅します。

3 再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。

注意
- **電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまで保存されます。**
- **画素数は共に1600x1200ピクセルですが、TIFFは画像を圧縮せずに記録するため、記録・再生時間が極端に長くなり、撮影可能枚数が少なくなりますのでご注意ください。(P.33参照)**

SQの画像サイズを設定

画質でSQを選択した場合、保存するファイルの大きさを選択することができます。
画像サイズを小さくすると、カードにより多くの写真を保存することができます。

操作方法

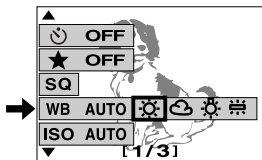
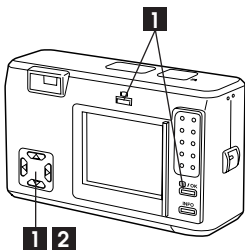
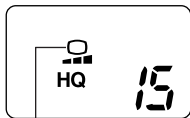
1 **撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの △ ▽ を押して行き、「SQ SETUP 640x480 1024x768」を選択します。**

2 **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「640x480ピクセル」(VGA)か「1024x768ピクセル」(XGA)かを選択します。**

3 **再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。**

注意 ・**電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

ホワイトバランス

本来の色に近い色合いにする為にホワイトバランスを選びます。オートバランスでは思い通りの仕上がりになりにくい光源の時各モードを選ぶ事により、より良い仕上がりになります。

コントロールパネル

マニュアルホワイトバランスマーク

操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの△ ▽を押して行き、「WB AUTO ☼ ☁ ☼ ⚏」を選択します。

2 十字ボタンの◁ ▷を押して行き、「AUTO(オート)」、「☼(昼光)」、「☁(曇天)」、「☼(白熱球)」、「⚏(蛍光灯)」の中から選択します。

オート以外の設定をすると、コントロールパネルにマニュアルホワイトバランスマークが表示されます。

再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。オート以外の設定をしていると、この時液晶モニタの下に各ホワイトバランスマークが表示されます。

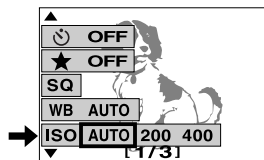
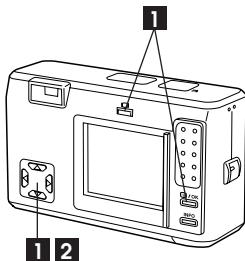
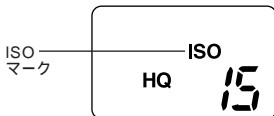
3 撮影します。

注意
- **撮影後も設定は保存されますが、レンズバリアを閉じると解除されてオートに戻ります。**
- **通常はオートに設定してお使いください。**
- **特殊な光源下では対応できない場合があります。**

ISO感度の設定

ISO

画像の感度（ISO）を設定することができます。感度は銀塩写真のフィルムの感度を基準に設定していますが、数値は目安です。
感度の種類はオート、約200(2倍感度アップ)、約400(4倍感度アップ)の3種類があります。数値が大きくなるほど、暗い所での撮影が容易になります。

操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの△ ▽を押して行き、「ISO AUTO 200 400」を選択します。

2 十字ボタンの◁ ▷を押して行き、「AUTO(オート)」、「200」、「400」の中から選択します。
オート以外の設定をすると、コントロールパネルにISOマークが表示されます。
感度が高くなるほど、速いシャッタースピード及び低照度下での撮影が可能になります。
再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。オート以外の設定をしていると、この時液晶モニタの下にISO感度が表示されます。

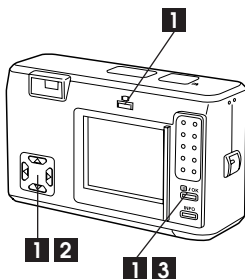
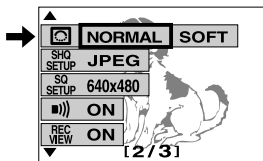
3 撮影します。

注意
- **撮影後も設定は保存されますが、レンズバリアを閉じると解除されてオートに戻ります。**
- **オートの時、暗い所でフラッシュ不使用の場合は、手ぶれ防止のため自動的に感度が上がります。**
- **感度を上げると画像にノイズが増えます。**

シャープネス（鮮鋭度）

シャープネス（鮮鋭度）を設定します。シャープネス（鮮鋭度）とは画像の切れ味のことです。「NORMAL」と「SOFT」の2種類から選択することができます。
「NORMAL」は画像の切れ味がシャープです。プリントなどの鑑賞用に適しています。「SOFT」は画像の切れ味がソフトです。加工するときなどに適しています。状況に応じて使い分けてください。

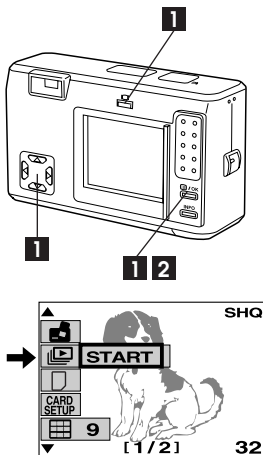
操作方法

1 **撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの △ ▽ を押して行き、「 NORMAL SOFT 」を選択します。**

2 **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「NORMAL」か「SOFT」かを選択します。**

3 **再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。**

注意 **・電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

自動再生

スライドのように1枚ずつ自動的にコマ送りをして、撮影した画像を表示させせることができます。

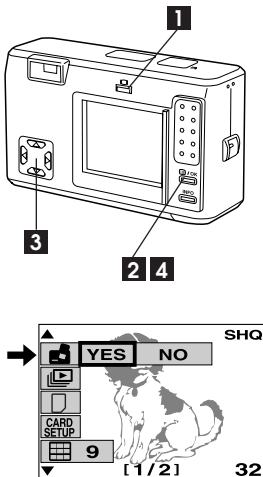
操作方法

1 再生モードでメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの△▽を押して行き「START」を選択します。

2 再びメニュー/OKボタンを押すと自動再生が始まり、再度押すと止まります。

注意
- **自動再生は一巡しても止まりません。メニュー/OKボタンを押して終了させてください。(ACアダプタを接続していない場合は、30分程で自動的に電源が切れます。)**

画像の消去

画像を1コマ消去または全コマ消去できます。
消したい画像にプロテクトがかかっている場合及びカードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は、消去できません。消去するにはプロテクトを解除するかライトプロテクトシールをはがしてから操作を行ってください。（ライトプロテクトシールは再使用しないでください。）

画像の1コマ消去

操作方法

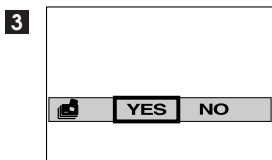
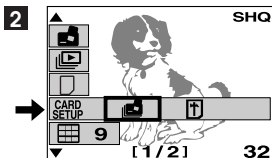
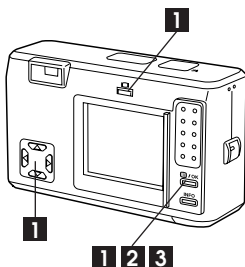
1 再生モードで液晶モニタに消したい画像を表示させます。

2 メニュー/OKボタンを押すと、「 YES NO 」が選択されます。

3 十字ボタンの ◁ ▷ を押して「YES」を選択します。
キャンセルする場合は「NO」を選択します。

4 再度メニュー/OKボタンを押すと、表示中の画像が消去されます。
＊インデックスディスプレイモード（P.46）、クローズアップ再生モード（P.47）でも、1コマ消去ができます。

注意
- **消去中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ／電池やカードを抜くと、カード内のデータが破壊される恐れがありますので十分ご注意ください。**
- **プリント予約(P.88)が設定されているカードは消去時間が長くなる場合がありますが、故障ではありません。**

画像の全コマ消去

操作方法

1 再生モードでメニュー/OKボタンを押してから十字ボタンの△ ▽を押して行き、「CARD SETUP」を選択します。

2 「 」が選択された状態でメニュー/OKボタンを押すと、確認画面が表示されます。

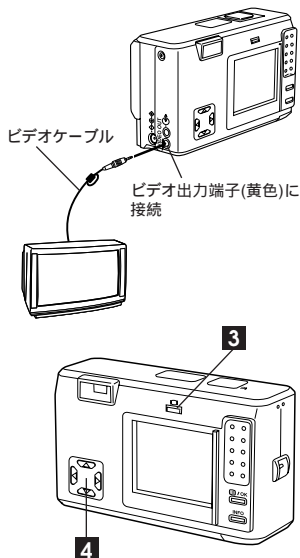
3 「YES」が選択された状態でメニュー/OKボタンを押すと、全コマ消去が行われます。
キャンセルする場合は十字ボタンの▷ を押し、「NO」を選択してメニュー/OKボタンを押します。

4 カード内の画像が全部消去されると、液晶モニタに「NO PICTURE」の表示が出ます。
プロテクト(P.48)のかかっている画像は消去されません。この場合は消去後にプロテクト最終コマが表示されます。

注意
- **誤って大切なデータを消してしまうことのないよう、十分ご注意ください。**
- **消去中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ／電池やカードを抜くと、カード内のデータが破壊される恐れがありますので十分ご注意ください。**

いろいろな機能を使ってみる

テレビとの接続

付属のビデオケーブルを使うことで、撮影した画像をテレビに表示することができます。
パソコンがない場合でも、大きな画面で見ることができます。

操作方法

接続の前に、テレビとカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

1 ビデオケーブルをカメラのビデオ出力端子とテレビの入力端子に差し込んでつなげます。

2 テレビの電源を入れます。

3 カメラの液晶モニタON/OFFボタンを押します。

4 十字ボタンで画像を選択します。

注意

- **P-300プリンタと同時に接続することはできません。**
- **テレビに接続すると液晶モニタは消灯します。**
- **テレビの調整により、画像が画面中央からずれることがありますが、故障ではありません。**
- **ご使用のテレビによっては画像の外側に黒枠が表示されることがあります。このような状態でテレビからビデオプリンタに出力すると黒枠が目立つことがあります。**
- **ACアダプタ(別売)の使用をおすすめします。**

印刷しましょう

スマートメディアに保存されている画像を印刷して楽しむことができます。

印刷には、カメラファイルシステム対応の「プリント予約」と、オリンパスCAMEDIA P-330N、P-330、P-300、P-150プリンタを使ったプリントの2種類があります。

1. 「プリント予約」では、カメラファイルシステム（Design rule for Camera File system/DCF）の規格に基づいてプリント予約の情報をスマートメディアカードに書き込み、規格に対応したプリンタやラボで希望の印刷をすることができます。（P.88 〜 91参照）
・オリンパスCAMEDIA P-330N／P-330プリンタでもプリントが可能です。

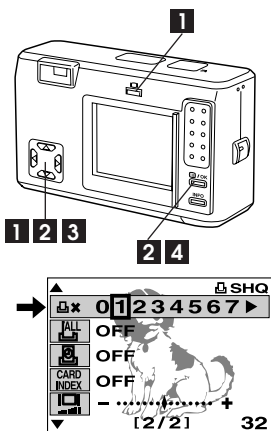
2. オリンパスCAMEDIA P-330N／P-330プリンタを使うと、撮影画像の入ったスマートメディアをプリンタのカードスロットに差し込んで、その場で撮影画像をプリントできます。
・各種機能の設定は全てプリンタ側で行います。詳しくはP-330N／P-330の取扱説明書をお読みください。

3. オリンパスCAMEDIA P-300/P-150プリンタを使うと、専用ケーブルでカメラとプリンタを接続してダイレクトプリントが可能です。（P.92 〜 102参照）

プリント予約

スマートメディアに保存されている画像に、プリントの枚数などの情報を書き込みます。これをプリント予約といいます。

プリントの枚数を設定

カード内に保存されている画像毎に希望印刷枚数の指示を書き込み、カメラファイルシステム規格に対応したプリンタ又はラボで希望の画像を印刷することができます。

操作方法

1 再生モードで十字ボタンを押して、プリントしたい画像を表示させます。

2 メニュー/OKボタンを押してから十字ボタンの△ ▽を押して行き、 ×01234567▶ を選択します。

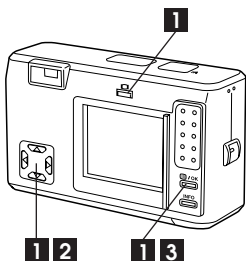
3 十字ボタンの◁ ▷を押して、プリント枚数を選択します。

4 再度メニュー/OKボタンを押すと設定されて、液晶モニタにプリント予約マーク が表示されます。

注意

- 全コマプリント予約(P.89)で「 」を選択すると、設定はすべて消去されます。
- プリンタ又はラボにより、一部機能が制限されることがあります。
- 電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまでカードに保存されます。
- P-330-N/P-330では、複数プリントの設定を行っても1枚プリントとして出力されます。複数プリントはプリンタ側で設定してください。
- P-330N/P-330で印刷する場合、カード内に記録された256枚目以降の画像は印刷できません。
- プリント予約には時間がかかることがあります。

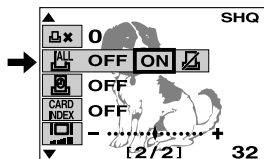
全コマプリント予約

カード内に保存されている全画像を設定部数印刷する指示を書き込み、カメラファイルシステム規格に対応したプリンタ又はラボで印刷をすることができます。

操作方法

1 再生モードでメニュー/OKボタンを押してから十字ボタンの△ ▽を押して行き、「 OFF ON 」を選択します。

2 十字ボタンの ◁ ▷ を押して「ON」を選択します。

3 再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。

「 」を選択してメニュー/OKボタンを押すと、P.88の枚数設定もすべて消去されます。
メニューに本項目が表示されている状態(2/2頁)でメニュー/OKボタンを押してください。

注意

- **印刷部数は、P. 88で最後に設定した枚数になります。**
- **設定後に撮影した画像は予約されません。再度設定し直してください。**
- **「 」は、プリント予約全てをキャンセルします。**
- **電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまでカードに保存されます。**
- **P-330N/P-330で印刷する場合、カード内に記録された256枚目以降の画像は印刷できません。**
- **プリント予約には時間がかかることがあります。**

プリント予約（つづき）

日付プリント予約

プリント予約された画像に撮影した日付を入れる指示を書き込み、カメラファイルシステム規格に対応したプリンタ又はラボで印刷をすることができます。

操作方法

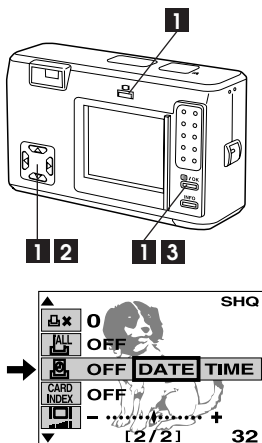
1 **再生モードでメニュー/OKボタンを押してから十字ボタンの△ ▽ を押して行き、「 OFF DATE TIME 」を選択します。**

2 **十字ボタンの ◁ ▷ を押して「OFF」（日付なし）、「DATE」（年月日）、「TIME」（時分秒）、の中から選択します。**

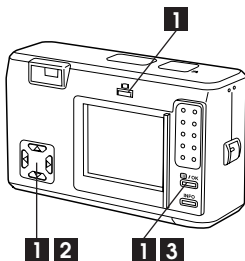
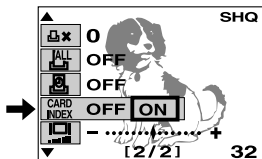
3 **再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。**

メニューに本項目が表示されている状態(2/2頁)でメニュー/OKボタンを押してください。

注意

- **あらかじめ日時を設定しておいてください。(P.118参照)**
- **設定後に撮影した画像は予約されません。再度設定し直してください。**
- **電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまでカードに保存されます。**
- **この機能は専用プリンタP-330N/P-330ではご使用になれません。プリンタ側の機能をお使いください。**
- **プリント予約には時間がかかることがあります。**

インデックスプリント予約

カード内に保存されている全画像にインデックスプリントの指示を書き込み、カメラファイルシステム規格に対応したプリンタ又はラボで印刷をすることができます。

操作方法

1 **再生モードでメニュー/OKボタンを押してから十字ボタンの△ ▽を押して行き、「CARD INDEX OFF ON」を選択します。**

2 **十字ボタンの ◁ ▷ を押して「ON」を選択します。**

3 **再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。**

メニューに本項目が表示されている状態(2/2頁)でメニュー/OKボタンを押してください。

注意

- **プリントの形態は、使用するプリンタ又はラボにより異なります。**
- **設定後に撮影した画像は予約されません。再度設定し直してください。**
- **電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまでカードに保存されます。**
- **この機能は専用プリンタP-330N/P-330ではご使用になれません。プリンタ側の機能をお使いください。**
- **プリント予約には時間がかかることがあります。**

ダイレクトプリント

専用プリンタP-300/P-150との接続のしかた

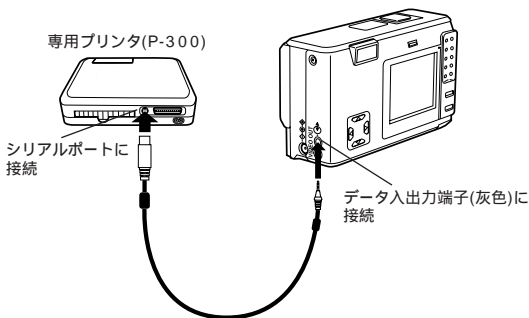
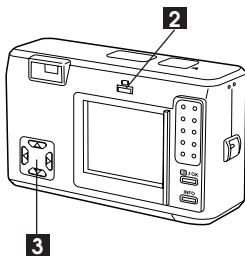
専用プリンタP-300／P-150と接続すれば、撮影した画像をプリントすることができます。

操作方法

接続の前に、プリンタとカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

1 デジタルカメラと別売の専用プリンタ(P-300／P-150)を専用ケーブルで接続し、プリンタの電源を入れます。

P-300をご使用の場合は、P-300に同梱のケーブルをご使用ください。

P-150をご使用の場合は別売のケーブル(CB-P82)が必要です。

2 **カメラのコントロールパネルが消灯してから液晶モニタON/OFFボタンを押して電源を入れます。**

3 **十字ボタンでプリントしたい画像を選択します。**

4 **プリンタで印刷部数を設定し(P-300のみ)、ダイレクトプリントボタンを押すとプリントが始まります。**

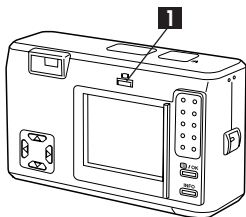
注意

- 接続は必ずプリンタとカメラの電源が切れている状態で行ってください。
- プリンタのダイレクトプリントボタンを押してもプリントが始まらない場合は、1度プリンタの電源を切って接続を確認し、再度電源を入れてダイレクトプリントボタンを押してください。
- 印刷中は液晶モニタが消灯し、一切の操作を受け付けません。
- テレビと同時に接続することはできません。
- 日付を入れることも可能です。(P.102参照)
- ACアダプタ(別売)の使用をおすすめします。
- TIFFモードで撮影した画像は印刷できません。

ダイレクトプリント（つづき）

クローズアッププリント(P-300/P-150)

専用プリンタP-300／P-150と接続すれば、撮影した画像の一部を拡大プリントすることができます。

操作方法

1 プリンタを接続した状態で液晶モニタをONにします。

2 クローズアップ再生します。（P.47参照）

3 プリンタで印刷部数を設定し(P-300のみ)、ダイレクトプリントボタンを押すとプリントが始まります。

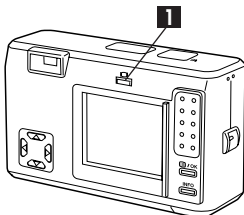
プリンタとの接続方法はP.92をご覧ください。

注意

・**精細なクローズアッププリントを行うためには、高画質モード(SHQまたはHQ)での撮影をおすすめします。**

インデックスプリント(P-300/P-150)

専用プリンタP-300／P-150と接続すれば、インデックス画像をプリントすることができます。

操作方法

1 プリンタを接続した状態で液晶モニタをONにします。

2 インデックス再生します。（P.46参照）

3 プリンタで印刷部数を設定し(P-300のみ)、ダイレクトプリントボタンを押すとプリントが始まります。

印刷後、画面上の枠は次のインデックスの先頭の画像に移動します。（再度ダイレクトプリントボタンを押すと、続きのインデックスが印刷できます。）

プリンタとの接続方法はP.92をご覧ください。

メモ　・インデックスプリントでは、日付は常に印刷されます。

ダイレクトプリント（つづき）

予約プリント (P-300)

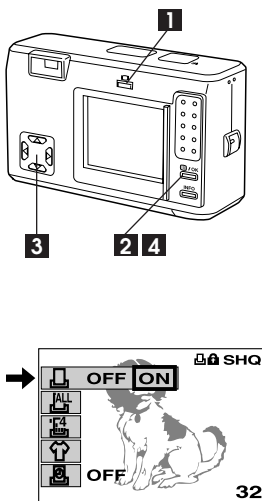
専用プリンタP-300と接続して、予め選択したプリント予約画像(凸)をダイレクトプリントします。

操作方法

1 プリンタを接続した状態で液晶モニタをONにして、プリントしたい画像を表示させます。

2 メニュー/OKボタンを押すと 凸 OFF ON が選択されます。

3 十字ボタンの ◁ ▷ を押して「ON」を選択します。

キャンセルするには、「OFF」を選択します。

いろいろな機能を使ってみる

4 再度メニュー/OKボタンを押します。

液晶モニタにプリント予約マーク 🖶 が表示されます。
再び画像を選択して **2** 〜 **4** をくり返し、予約していきます。
予約を全てキャンセルするには、全コマプリント(P.98)で「 ⊠ 」を選択します。
液晶モニタON/OFFボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

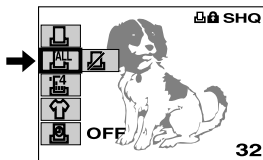
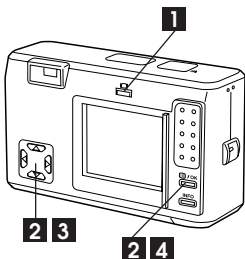
5 プリンタで印刷部数を設定し、ダイレクトプリントボタンを押すとプリントが始まります。

プリンタとの接続方法はP.92をご覧ください。

注意
- **印刷実行後も選択データは保存されますが、電源を切ると解除されます。**
- **インデックス画面（P.95）、からでも予約できますが、プリント時には1コマ表示に戻してください。**
- **ACアダプタ(別売)の使用をおすすめします。**

ダイレクトプリント（つづき）

全コマプリント (P-300)

専用プリンタP-300と接続すれば、カード内の全コマをプリントすることができます。

操作方法

1 プリンタ接続状態で液晶モニタをONにします。

2 メニュー/OKボタンを押してから十字ボタンの △ ▽ を押して、「 」を選択します。

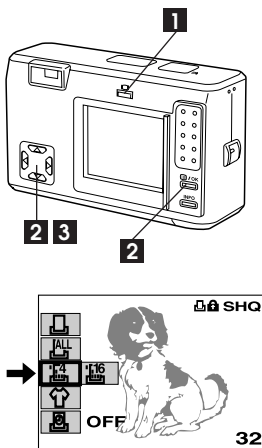
3 十字ボタンの ◁ ▷ を押して「 」を選択します。
液晶モニタON/OFFボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

4 再度メニュー/OKボタンを押します。

5 プリンタで印刷部数を設定し、ダイレクトプリントボタンを押すとプリントが始まります。
プリンタとの接続方法はP.92をご覧ください。

注意
- **「 」を選択すると、予約プリント(P.96)で行った設定がキャンセルされます。**
- **ACアダプタ(別売)の使用をおすすめします。**

分割プリント (P-300／P-150)

専用プリンタP-300／P-150と接続すれば、同一画像を4分割プリント／16分割プリントできます。

操作方法

1 **プリンタ接続状態で液晶モニタをONにしてプリントしたい画像を表示させます。**

2 **メニュー/OKボタンを押してから十字ボタンの △ ▽ を押して行き、「 ![4][16] 」を選択します。**

3 **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「 (4分割プリント)」か「 (16分割プリント)」かを選択します。**

液晶モニタON/OFFボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

4 **プリンタで印刷部数を設定し(P-300のみ)、ダイレクトプリントボタンを押すとプリントが始まります。**

プリンタとの接続方法はP.92をご覧ください。

ダイレクトプリント（つづき）

ペーパーは、プリンタにより下記のものをご使用ください。

・ **P-330N/P-330/P-300**

スタンダードセット　：P-60NP
シールペーパーセット　：P-60NS1
4分割シールセット　：P-60NS4
16分割シールセット　：P-60NS16
オーバーコートセット　：P-60NOC

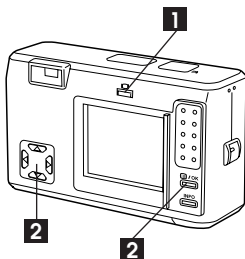
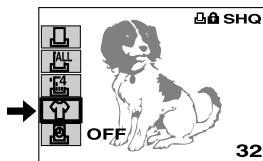
・ **P-150**

スタンダードペーパー　：P-50P
16分割シールペーパー　：P-50S16

- **メニュー表示中にプリンタのダイレクトボタンを押してください。メニューから抜けると設定できません。**
- **画素数を大きく減らして印刷するため、画質はもとの画像の品質とは異なります。**
- **このモードでは、日付プリントが設定されていても日付はプリントされません。**

転写プリント(P-300／P-150)

専用プリンタP-300／P-150と接続すれば、左右が逆の転写プリントがつくれます。Tシャツプリント等に活用できます。

操作方法

1 プリンタ接続状態で液晶モニタをONにしてプリントしたい画像を表示させます。

2 メニュー/OKボタンを押してから十字ボタンの △ ▽ を押して行き、「 」を選択します。

液晶モニタON/OFFボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

3 プリンタで印刷部数を設定し(P-300のみ)、ダイレクトプリントボタンを押すとプリントが始まります。

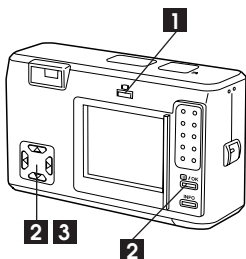
プリンタとの接続方法はP.92をご覧ください。

メモ **・Tシャツプリント作成には別売の布転写シートをお使いください。**

ダイレクトプリント（つづき）

日付プリント (P-300／P-150)

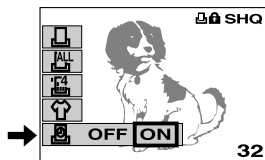
専用プリンタP-300/P-150と接続して、プリントに日付を入れます。

操作方法

1 プリンタ接続状態で液晶モニタをONにします。

2 メニュー/OKボタンを押してから十字ボタンの△ ▽を押して行き、「 OFF ON 」を選択します。

3 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「ON」(日付入り)を選択します。
ここでメニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。
液晶モニタON/OFFボタンを押すと、設定されずにメニューモードから抜けます。

4 プリンタで印刷部数を設定し(P-300のみ)、ダイレクトプリントボタンを押すとプリントが始まります。
プリンタとの接続方法はP.92をご覧ください。

注意

- **あらかじめ日時を設定しておいてください。(P.118参照)**
- **ONに設定しても、4分割プリント、16分割プリントでは日付は印刷されません。**
- **予約画像（P.96）がないときは現在表示の画像が、予約画像があるときは予約画像が印刷されます。**
- **インデックス表示、拡大表示ではそれぞれの表示画像が印刷されます。**
- **電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

CAMEDIA

4

撮影した画像を
パソコンで見る

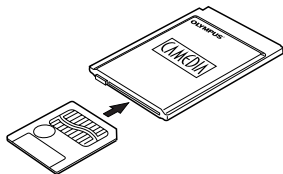
OLYMPUS DIGITAL CAMERA

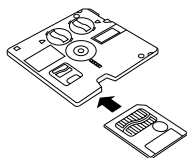
撮影した画像をパソコンで見る

ここでは別売の機器を使ったパソコンへのデータ転送と、同梱のソフトウェアCAMEDIA Comを使ったパソコン上での画像の表示とその加工を紹介します。

撮影した画像をパソコンに読み込む

スマートメディア用PCカードアダプタを使って読み込む

PCカードスロットまたは外付PCカードドライブがあるパソコンでは、別売のPCカードアダプタ（MA-2）を使うとスマートメディアから直接画像を読み込むことができます。

フロッピーディスクアダプタを使って読み込む

3.5インチフロッピーディスクドライブのあるパソコンでは、別売のフロッピーディスクアダプタFlashPath（MAFP-2/MAFP-2N）を使うと、直接スマートメディアから画像を読み込むことができます。

スマートメディア・リーダ/ライタを使って読み込む

Windows98のUSB対応パソコンでは、別売のスマートメディア・リーダ/ライタ(MAUSB-2)を使うと、データの転送を簡単かつ高速に行うことができます。

注意
- **パソコンの動作環境やスマートメディアの記憶容量等により、ご使用になれない場合があります。**
- **ライトプロテクト(書き込み禁止)シールの貼ってあるカードをパソコンで使用するとエラーが多発しますので、ご使用にならないでください。(詳しくは両アダプタの取扱説明書をお読みください。)**

撮影した画像をパソコンに読み込む(つづき)

同梱のソフトウェアCAMEDIA Comを使って読み込む

同梱のCAMEDIA Com（DOS/V専用）をインストールすると、カメラとパソコンを接続して撮影画像をパソコンに読み込み、表示、加工、保存などを行うことができます。詳しくはCAMEDIA Comのオンラインマニュアルを参照してください

CAMEDIA Com の主な画像機能

インデックス表示

画像を一覧表示することができます。また、画像のコピーや移動といったファイル管理も可能です。

単画像表示

画像を任意の倍率で単独表示することができます。また、その画像に加工処理を施すことも可能です。

画像処理

画像を拡大・縮小したり、色数を変更したり、画像上に文字を書き込んだり、各種フィルタ効果を入れることができます。

カメラ互換形式変換（コンバート）

カメラで再生できない形式の画像ファイルを、再生可能な形式に変換することができます。

例：BMP→Exif

パソコンの使用環境

パソコンにCAMEDIA Comをインストールしてお使いになる場合は、お持ちのパソコンをご確認のうえ次の条件でご使用ください。

パソコン	：DOS/V機（IBM PC/AT互換機）
OS	：Windows 98/95/NT 4.0（日本語版）
CPU	：Pentium133MHz 以上 (PentiumⅡ 以上推奨)
ハードディスクの空き容量	：20MB 以上
メモリ	：Windows 98/95：32MB 以上 Windows NT 4.0：48MB 以上
コネクタ	：標準RS-232Cインターフェイス D-SUB 9ピンコネクタ
モニタ	：256色以上、640×480ドット以上 （32000色以上推奨）

注意
- **CAMEDIA ComはDOS/V機専用です。Apple Macintosh及びNEC PC-98シリーズではお使いになれません。**
- **CAMEDIA Comの詳細については、CAMEDIA Comのオンラインマニュアルを参照してください。**

CAMEDIA Comを使う

画像をパソコンで見る

画像の表示には、パソコンに保存されているものを表示する「ディスクインデックス」と、カメラに接続してカメラ内のカードに保存されているものを表示する「カメラインデックス」とがあります。

操作方法

3
4
5
1. **同梱のCAMEDIA Comをあらかじめお持ちのパソコン（DOS/V）にインストールしておきます。インストール方法についてはCAMEDIA Comのインストールマニュアルを参照してください。**
2. **「カメラインデックス」を使う場合は、パソコンとカメラを接続します。接続方法についてはCAMEDIA Comのオンラインマニュアルを参照してください。**
3. **パソコンにインストールしたCAMEDIA Comを起動します。**
4. **パソコンのディスクに保存されている画像ファイルを閲覧する時は、メニューの[表示] → [ディスクインデックス]（ツールバー ）を選択します。カメラに保存されている画像ファイルを閲覧する時はメニューの[表示] → [カメラインデックス]（ツールバー ）を選択します。**

   保存されている画像が一覧で表示されます。
5. **一覧表示されている画像をダブルクリックすると、拡大して表示されます。**

> **メモ** 同梱のDOS/V用パソコン接続ケーブルでパソコンとカメラを接続し、画像をパソコンへ読み込む（ダウンロードする）ことも可能です。詳しくはCAMEDIA Comのオンラインマニュアルを参照してください。

画像の明るさを調整する

撮影した画像が暗すぎたり明るすぎた場合、フィルタ効果を使って明るさを調整することができます。

操作方法

1

1 ディスクインデックスやカメラインデックスで一覧表示されている中から、加工したい画像をダブルクリックして選択します。

2

2 メニューから[画像] → [フィルタ変換] → [明るさ]を選択します。

3

3 表示されているプレビュー画像を見ながら、スライダーを左右に動かすか数値を入力して、明るさを調整します。値をマイナス方向に設定すると画像を暗く、値をプラス方向に設定すると画像を明るくする効果が得られます。

4

4 お好みの結果が得られたところで[OK]ボタンを押します。

フィルタ効果のかけられた画像が表示されます。

CAMEDIA Comを使う(つづき)

画像のぼけ具合を調整する

ピントがずれてぼやけてしまった画像をくっきりさせたい場合や、逆にやわらかな雰囲気をだすために画像にぼかしをかけたい場合は、フィルタ効果を使ってぼけ具合を調整することができます。

操作方法

1 ディスクインデックスやカメラインデックスで一覧表示されている中から、加工したい画像をダブルクリックして選択します。

2 メニューから[画像] → [フィルタ変換] → [シャープネス]を選択します。

3 表示されているプレビュー画像を見ながら、スライダーを左右に動かすか数値を入力して、シャープネスを調節します。値をマイナス方向に設定するとぼかし効果が、値をプラス方向に設定すると輪郭を鮮明にする効果が得られます。

4 お好みの結果が得られたところで[OK]ボタンを押します。

フィルタ効果のかけられた画像が表示されます。

画像に撮影情報を焼き込む

撮影した画像に、撮影日時やコメントなどの情報を焼き込むことができます。

操作方法

1 ディスクインデックスやカメラインデックスで一覧表示されている中から、加工したい画像をダブルクリックして選択します。

2 メニューから[画像] → [テキスト挿入]を選択します。

3 画像に焼き込みたい情報を[撮影情報]のボタンで選択し、必要に応じてフォントなどを設定します。設定が済んだら[OK]ボタンを押して、画像にテキストを挿入します。

3

4 挿入した文字列をドラッグして位置を指定します。お好みの位置まで移動させたところで、文字列以外の場所をクリックします。

4

5 撮影情報の焼き込まれた画像が表示されます。

5

CAMEDIA Comを使う(つづき)

パソコンで作成した画像をカメラで再生する

パソコンで作成・加工した画像は画像のサイズやファイル形式がまちまちなため、そのままではカメラで再生できないことがあります。画像ファイルを変換（コンバート）することによって、カメラの液晶モニタに表示したり、カメラのビデオ出力端子に接続したテレビで再生できるようになります。

操作方法

1

1 ディスクインデックスからコンバートしたい画像を選択します。

2

2 メニューから[ファイル] → [カメラ互換形式コンバート]（ツールバー ）を選択します。

3

3 変換先フォルダにスマートメディアのフォルダを指定します。必要に応じて解像度などを指定し、[変換]ボタンを押します。

指定されたスマートメディアの変換先フォルダに、コンバートされた画像ファイルが保存されます。このスマートメディアをカメラに挿入すると、選択された画像をカメラで再生することができます。

CAMEDIA

5

カメラのシステムを設定する

OLYMPUS DIGITAL CAMERA

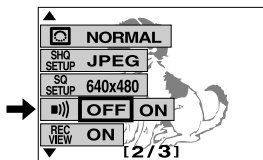
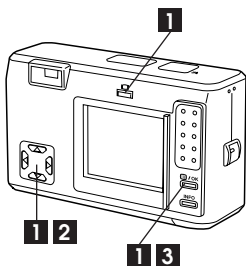
ビープ音の有無を設定

警告音などのビープ音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。

操作方法

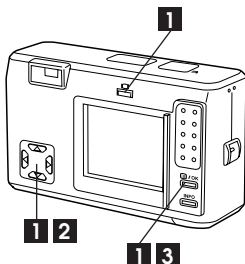
1 **撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの △ ▽ を押して行き、「 OFF ON 」を選択します。**

2 **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「ON」か「OFF」かを選択します。**

3 **再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。**

注意 ・**電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

記録中の画像表示の有無を設定

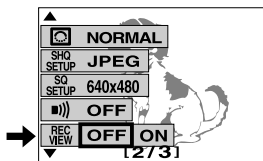
液晶モニタOFFで撮影時、画像がスマートメディアに記録されている間、画像を液晶モニタに表示するかどうかを設定します。

操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの △ ▽ を押して行き、「 REC VIEW OFF ON 」を選択します。

2 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「ON」か「OFF」かを選択します。

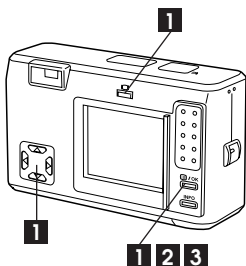
「ON」にすると、撮影後、撮影画像がモニタに表示されます。

「OFF」では画像が表示されません。

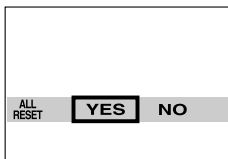
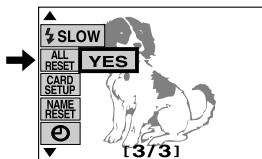
3 再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。

注意 ・電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまで保存されます。

設定クリア

設定をクリアして、初期設定に戻します。

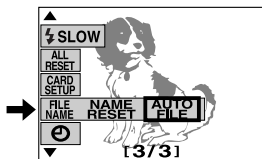
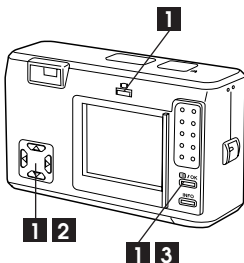
操作方法

1 **撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの △ ▽ を押して行き、「ALL RESET YES」を選択します。**

2 **再度メニュー/OKボタンを押すと、確認画面が表示されます。**

3 **「YES」が選択された状態でメニュー/OKボタンを押すと設定が解除され、初期設定に戻ります。**
キャンセルする場合は十字ボタンの ▷ を押して「NO」を選択し、メニュー/OKボタンを押します。

注意　**・設定がクリアされる項目は、撮影メニューの①及び撮影メニューの②の1ページ目に表示される項目です。（P.52/53参照）**

ファイルネームの設定

画像ファイルネームの記憶方法を選択できます。オートファイル [AUTO FILE] にするとパソコンに画像を取り込んだ時ファイルネームが重複せず、ファイル管理に便利です。

操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの △ ▽ を押して行き、「FILE NAME　NAME RESET　AUTO FILE」を選択します。

2 十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「[AUTO FILE]（オートファイル）」か「[NAME RESET]（ネームリセット）」かを選択します。

「ネームリセット」を選択すると、カードを入れるたびにファイルネームが0001にリセットされます。

「オートファイル」を選択すると、最後に使用したカードの最終ファイルネームから続けて加算されるので、1度に撮影した数枚のカードのファイルネームが重複しません。

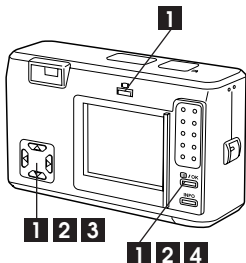
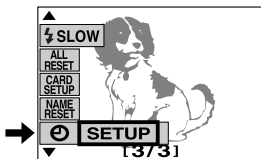
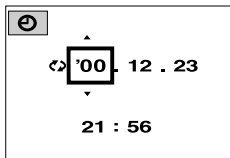
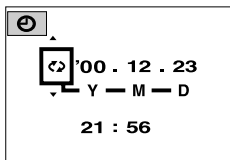
3 再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。

注意

- **最終ファイルネームよりも大きいファイルネームを持つカードを入れた場合は、そのファイルネームから続けて加算されます。**
- **最大ファイルネーム（9999）に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり、撮影はできません。**
- **電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

日付／時刻の設定

カメラの日付や時刻を設定します。

操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの △ ▽ を押して行き、「 SETUP 」を選択します。

2 再度メニュー/OKボタンを押すと、設定画面になります。十字ボタンの △ ▽ を押して日付の順序を
DMY(日・月・年)、
MDY(月・日・年)、
YMD(年・月・日)、
の中から選択し、▷ を押して数の設定に移動します。

3 **十字ボタンの△ ▽を押して左から設定し、▷を押して同様に最後まで繰り返します。**

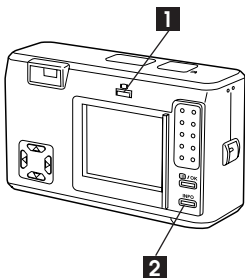
4 **再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。**

0 秒の時報に合わせてメニュー/OKボタンを押すと、正確に合わせることができます。

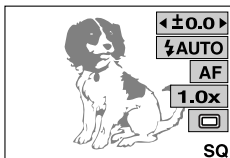
- **電池を抜いた状態で約1時間放置すると設定した日付は解除されます(当社試験条件による)。この場合は再度設定を行ってください。**
- **大切な撮影の前には、日付・時刻が正しく設定されていることをご確認ください。**
- **電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

撮影情報表示

撮影モードで液晶モニタをONにした時、メニューを表示させるかさせないかを設定します。

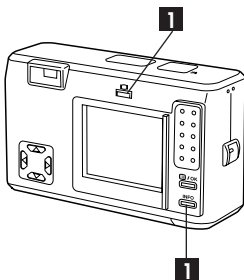
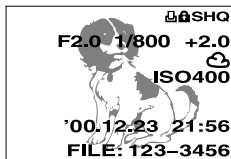
操作方法

1 撮影モードで液晶モニタをONにします。

撮影メニューが表示されます。

2 情報表示ボタンを押すたびに、ON/OFFが切り替わります。

注意 **・レンズバリアを閉じると、設定は解除されてONにもどります。**

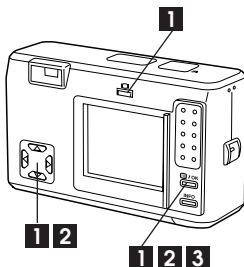
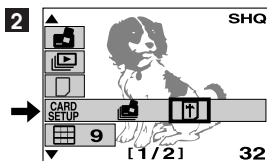
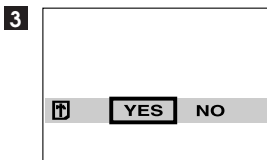
画像情報表示

再生時、画像の撮影情報（カメラの設定、日時、ファイルネーム等）を表示させたり、画像を通信する際に添付されたメッセージを液晶モニタに表示させることが出来ます。

操作方法

1 再生モードで情報表示ボタンを押すたびに、
標準、
画像情報、
メッセージ表示、
無表示、
に切り替わります。

- **画像情報を表示している時は、コマ番号は表示されません。**
- **画像情報表示に設定しても、インデックスディスプレイモードではコマ番号表示になります。**
- **メッセージが表示されている時は、他に何も表示されません。**

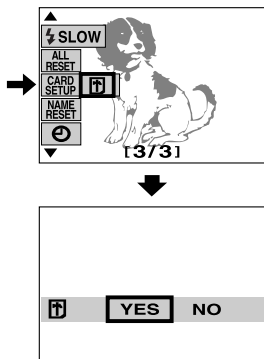
カードの初期化

初期化とはカードを使用機器で書き込みできるフォーマットに変えることです。
初期化済みのオリンパス製カードのご使用をおすすめします。

操作方法

1 再生モードでメニュー/OKボタンを押してから十字ボタンの△ ▽を押して行き、「CARD SETUP」を選択します。

2 十字ボタンの ◁ ▷ を押して「 」を選択し、メニュー/OKボタンを押すと、確認画面が表示されます。

3 「YES」が選択された状態でメニュー/OKボタンを押すと、カードが初期化されます。
キャンセルする場合は十字ボタンの ▷ を押し、「NO」を選択してメニュー/OKボタンを押します。

4 カード内の画像が初期化されると、液晶モニタに「NO PICTURE」の表示が出ます。

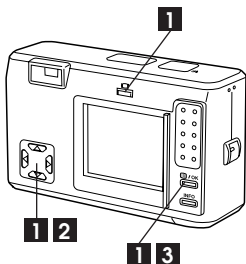
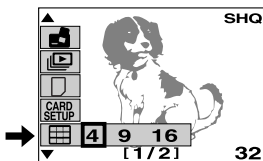
[撮影モードでの初期化]

撮影モードで液晶モニタをONにしてからメニュー/OKボタンを押し、十字ボタンの △ ▽ を押して行き、「CARD SETUP」を選択しても初期化できますが、画像を確認してからの初期化をおすすめします。

注意

- **通信設定ファイルが消えることを目立たせるために初期化するとプロテクトをかけた画像を含む既存のデータ及び通信を行うための通信設定ファイルは消滅します。使用済みカードを初期化する時には、大切なデータを消さない様にご確認ください。**
- **オリンパス製以外のカード及びパソコンで初期化あるいは使用したカードは、書き込み時間が長くなることがあります。このようなときはカメラで再度初期化を行うことをおすすめします。**
- **カードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は、初期化を受け付けません。**

インデックスディスプレイの設定

インデックスディスプレイモードでの表示コマ数を設定します。

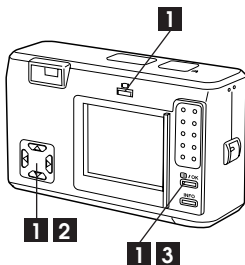
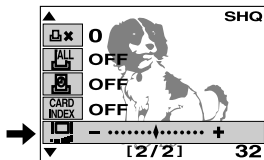
操作方法

1 **再生モードでメニュー/OKボタンを押してから十字ボタンの△▽を押して行き、「田 4 9 16」を選択します。**

2 **十字ボタンの◁ ▷を押して、「4分割」、「9分割」、「16分割」の中から選択します。**

3 **再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。**

> **注意** ・電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまで保存されます。

液晶モニタの明るさを設定

液晶モニタの明るさを調節できます。

操作方法

1 **再生モードでメニュー/OKボタンを押してから十字ボタンの△ ▽を押して行き、「 − ········ + 」を選択します。**

2 **十字ボタンの◁ ▷を押して、明るさを選択します。**

3 **再度メニュー/OKボタンを押すと、設定されてメニューモードから抜けます。**

注意　**・電源をOFFにしても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

6

付録

Q & A

Q 電池はどの位もちますか。

A 約200コマの撮影が可能です(フラッシュ50%使用時)。但しこれは3Vリチウム電池パック(CR-V3)を使用した場合の一応の目安で、液晶モニタの使用時間、フラッシュの使用頻度、電池の種類、使用環境温度等によって大きく変わります。特に液晶モニタを点灯させたままにすると、電池の消耗が激しいのでこまめに電源を切るようにしてください。別売の専用ACアダプタを使用しますと電池寿命を心配しなくてすみます。なお、本書に記載されている撮影可能枚数は、当社試験条件、当社指定の電池による参考値です。

Q 画像データに記録される日付が正しくないのですが。

A 出荷時には日付設定されておりませんので、撮影前に日付設定をしてください。(P.118) (同梱のソフトウェアCAMEDIA Comとパソコン接続ケーブルを用いることで、パソコンからの設定もできます。) 尚、カメラから電池を抜いて約1時間放置すると、設定は解除されます。

Q フィルターやフードは取り付けられますか。

A 取り付けられません。

Q 外付けフラッシュは使用できますか。

A ご使用になれません。

Q フラッシュを使用し、人物撮影をしたら目が赤く写ってしまったのですが。

A どのカメラでもフラッシュを用いた人物撮影では目が赤く写ることがあります。これは網膜がフラッシュの光を反射するために起こる現象ですが、個人差が大きく、また周囲の明暗等の撮影条件によっても異なります。一般的には東洋人は出にくく、西洋人は出やすい傾向にあります。赤目軽減発光モードを使用することにより、発生頻度を大幅に軽減できます。（P.61）

Q カメラの保管はどうすれば良いのですか。

A カメラはホコリ、湿気、塩分を嫌います。よくふいて乾燥させて、保管してください。海辺で使ったあとは、真水で浸した布を硬く絞ってふき取ると良いでしょう。防虫剤の使用は避けてください。また、長期保管の場合は電池を抜いてください。

修理に出す前にお確かめください

操作上のトラブル（カメラ機能）

こんなときには		
カメラが動かない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①電源がOFFになっている。	❶レンズバリアを開けて、電源をONにしてください。	P.31
②電池の向きが正しくない。	❷電池を正しく入れ直してください。	P.24
③電池がない。	❸新しい電池を入れてください。	P.24
④寒さで電池の性能が一時的に低下した。	❹電池をポケット等で温めてから使用してください。	
⑤パワーセーブ機構が働いた。	❺レンズバリアをいったん閉めて、再度開けてください。	P.32
⑥専用プリンタP-300/P-150に接続して印刷中である。	❻印刷が終わるまでお待ちください。	P.92

こんなときには		
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュの充電が完了していない。または、カードに書き込み中である。	❶一度シャッターボタンから指を離し、緑ランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.58 P.37
②カードに問題がある。	❷エラー表をご覧ください。	P.136
③カードの容量がいっぱいになった。	❸カードの交換を行うか､不要なコマの消去を行うか､画像をパソコンなどに転送し､全コマ消去を行ってください。	P.30 P.84 P.85
④撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった。	❹電池を新品と交換してください。	P.24
⑤電池残量が少なくなった。	❺電池を交換してください。（カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。）	P.24

こんなときには		
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
⑥カードにライトプロテクトシールが貼られている、またはカメラにカードが入っていない。	❻新しいカードを入れて下さい。	P.30
⑦再生モードになっている。	❼レンズバリアを開けてください。	P.31

こんなときには		
フラッシュが発光しない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュモードが発光禁止になっている。	❶フラッシュモードを切り替えてください。(連写モード及びパノラマモードでは、フラッシュはご使用になれません。)	P.59
②明るい被写体である。	❷フラッシュを強制的に発光させたい場合は強制発光モードにしてください。	P.62

こんなときには		
液晶モニタ上で再生ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①撮影モードになっている。	❶レンズバリアを閉じて、液晶モニタをONにしてください。	P.44
②カードに画像が記録されていない。	❷液晶モニタに「NO PICTURE」と表示されます。撮影してから再生してください。	P.44
③カードに問題がある。	❸エラー表をご覧ください。	P.136
④テレビに接続している。	❹テレビに接続中は、液晶モニタは消灯します。	

修理に出す前にお確かめください（つづき）

こんなときには		
液晶モニタが見にくい。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①液晶モニタの輝度の設定が適切でない。	❶液晶モニタの輝度調節をしてください。	P.125
②太陽光の下である。	❷太陽の光を手などでさえぎってください。	
③液晶モニタが壊れている。	❸修理に出してください。	

こんなときには		
画像のプロテクト、１コマ消去、全コマ消去、初期化ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①カードにライトプロテクトシールが貼られている。	❶シールを剥がしてからご使用ください。シールは再使用しないでください。	

こんなときには		
専用プリンタP-300/P-150と接続して印刷ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①TIFF画質モードで撮影した。	❶TIFF以外のモードで撮影してください。	P.78
②接続が正しくされていない。	❷１度プリンタとカメラの電源を切って接続し直してください。	P.92
③テレビに接続している。	❸プリンタとテレビを同時に接続することはできません。	

こんなときには		
パソコンとつないだとき、データ転送中にエラーメッセージが出る。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①ケーブルが正しく接続されていない。	❶正しく接続されていることを確認してください。	
②カメラの電源がOFFになっている。	❷レンズバリアを開けて、電源をONにしてください。	P.31
③電池がない。	❸新しい電池を入れるか、ACアダプタ(別売)をお使いください。	P.24 P.26
④パソコンのシリアルポートが正しく設定されていない。	❹パソコンでシリアルポートが正しく設定されていることを確認してください。	

画像の出来が良くない場合

こんなときには		
ピントの合っていない写真ができた。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった。(カメラぶれ)	❶カメラを正しく構え､シャッターボタンを静かに押してください。	P.34
②ピントを合わせたいものが、オートフォーカスマークからはずれてしまった。	❷ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか､フォーカスロック撮影を行ってください。	P.40
③レンズが汚れていた。	❸レンズをきれいにしてください。	
④使用しているモードが違っていた。	❹0.15～0.6m以内に被写体がある場合はマクロモードを使い、それ以上の場合は通常モードを使ってください。	P.41 P.66
⑤セルフタイマー撮影で、カメラの直前に立ってシャッターボタンを押した。	❺カメラの前に立たず、ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを押してください。	P.70
⑥プリセットフォーカスで被写体距離を確認せずに撮影してしまった。	❻プリセットフォーカスの合焦距離範囲で撮影してください。	P.64
⑦フラッシュの必要な状況で、フラッシュモードが「赤目軽減発光」､「発光禁止」または「スローシンクロ」になっていた。	❼シャッターが切れるまで時間がかかりますので、三脚をご使用になるか、カメラをしっかり構えてください。	

こんなときには		
できあがった画像が明るすぎる。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュモードが強制発光になっていた。	❶強制発光以外のフラッシュモードを選んでください。	P.59
②高輝度の被写体に向かって撮影した。	❷露出補正をするか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P.57

付録

修理に出す前にお確かめください（つづき）

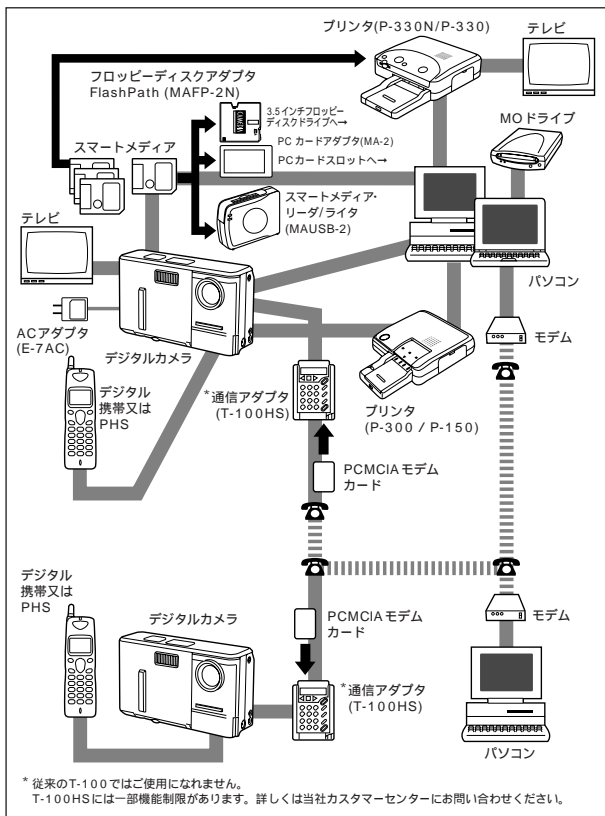
こんなときには		
できあがった画像が暗い。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュを指などで覆ってしまった。	❶カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気を付けてください。	P.34
②撮りたいものがフラッシュ撮影範囲よりも遠くにあった。	❷フラッシュ撮影可能範囲内で撮影してください。	P.58
③フラッシュモードが発光禁止になっていた。	❸フラッシュのモードを確認してから撮影してください。	P.59
④逆光状態で小さい被写体を撮影した。	❹フラッシュのモードを強制発光モードにセットするか、スポット測光モードにして撮影してください。	P.62 P.69
⑤連写モードで撮影した。	❺シャッタースピードが早いために、暗い場所では通常よりも暗く写ります。	

こんなときには		
室内で写した写真の色がおかしい。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①照明の色が影響した。	❶フラッシュのモードを強制発光にセットして撮影してください。	P.62
②被写体に白い部分がなかった。	❷画角に白い被写体を入れて撮影するか、照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.80
③ホワイトバランスの設定を間違えた。	❸照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.80

こんなときには		
画像の一部が欠けてしまった。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①レンズに指やストラップがかかってしまった。	❶カメラを正しく構え、レンズに指やストラップをかけないように気を付けてください。	P.34
②撮影距離が近かった。	❷液晶モニタを使ってください。	P.38

システムチャート

別売の機器とシステムを組むと、以下のことが可能です。(通信のための機器の組み合わせについては、別冊の通信機能編取扱説明書をお読みください。)

●専用プリンタと組み合わせて、撮影画像をダイレクトプリント
●通信アダプタを介して一般回線電話からデータの伝送

* 従来のT-100ではご使用になれません。
T-100HSには一部機能制限があります。詳しくは当社カスタマーセンターにお問い合わせください。

付録

エラーコード表

C-21T.commuでは各種の警告をエラーコードにて表示します。
（コントロールパネルの表示は点滅します。）
通信に関するエラーは、別冊の通信機能編取扱説明書をお読みください。

警告 液晶モニタ表示	エラー内容	対応
カード無し警告 ! NO CARD	カードが入っていません。又は、認識しません。	カードを入れてください。又は、カードを入れなおして下さい。
カードフル警告 ! CARD FULL	撮影可能枚数が0のため撮影できません。	カードを交換するか、不要なコマを消去して下さい。
ライトプロテクト警告 ! WRITE-PROTECT	カードが書き込み禁止になっています。	撮影をする場合はプロテクトシールをはがしてください。
カードエラー警告 ! CARD ERROR	撮影・再生・消去する事が出来ません。	クリーニングペーパーでカードの端子を拭き、もう一度挿入して下さい。初期化出来ない場合、このカードはご使用になれません。

アフターサービスについて

●保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上大切に保管してください。

●本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または裏表紙の当社サービスステーションにご相談ください。使用説明書等にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

●保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。また運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

●当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後8年間を目安に当社では保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店また、お近くの当社サービスステーションにお問い合わせください。

●本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。

●本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償しかねます。

別売品のご案内

●携帯電話接続ケーブル（CB-PDC1）

●PHS接続ケーブル（CB-PHS1）

●パソコン用ソフトウェア

・CAMEDIA Master (Macintosh、Windows 95/98/NT4.0用)

●スマートメディア(8MB/16MB/32MB/64MB)

●機能付スマートメディア

・テンプレートカード (4MB/M-4T)

・カレンダーカード (4MB/M-4C)

・手書きタイトルカード (4MB/M-4N)

●専用プリンタ (P-330N)

●ACアダプタ (E-7AC)

●3Vリチウム電池パック (LB-01)

●ニッケル水素電池 (B-03NH16)

●ニッケル水素電池専用充電器 (BU-40SNH)

●PCカードアダプタ (MA-2)

＊64MBスマートメディアまで対応

●フロッピーディスクアダプタFlashPath (MAFP-2N)

＊64MBスマートメディアまで対応

＊DOS/V: Windows 95/98/NT4.0

＊PC-9821: Windows 95(OSR2以降)/98

＊Power Macintosh: Mac OS 8.6以前(Read only)

●スマートメディア・リーダ／ライタ (MAUSB-2)

＊64MBスマートメディアまで対応

＊Windows 98、Mac OS 8.6用

画像ファイルの互換性について

C-21T.commuで撮影した画像を他のオリンパスデジタルカメラで再生・印刷する場合及び他のオリンパスデジタルカメラで撮影した画像をC-21T.commuで再生・印刷する場合は、以下のような制限がありますのでご注意ください。

C-21T.commuで撮影、他のカメラで再生・印刷

他のカメラ	液晶モニタ再生	ダイレクトプリント(P-300/P-150接続時)
C-860L	○ 注1	×
C-2020ZOOM	○	○
C-21	○	○
C-2500L	○	×
C-920ZOOM	○ 注1	×
C-2000ZOOM	○	○
C-900ZOOM (D-400ZOOM)	×	×
C-830L	×	×
C-840L (D-340L)	×	×
C-820L (D-320L)	×	×
C-420L	×	×
C-1400XL	×	×
C-1400L	×	×
C-1000L	×	×

注1: SQモード以外で撮影した画像はインデックス再生されます。

付録

画像ファイルの互換性について（つづき）

他のカメラで撮影、C-21T.commuで再生・印刷

他のカメラ	液晶モニタ再生	ダイレクトプリント(P-300/P-150接続時)
C-860L	○	○
C-2020ZOOM	○ 注2	○
C-21	○	○
C-2500L	○ 注1	×
C-920ZOOM	○	○
C-2000ZOOM	○	○ 注2
C-900ZOOM (D-400ZOOM)	○	○ 注2
C-830L	○	○ 注2
C-840L (D-340L)	○	○
C-820L (D-320L)	○	○
C-420L	○	○
C-1400XL	○	○
C-1400L	○	○
C-1000L	○	○

注1: SQモード以外で撮影した画像はインデックス再生されます。
注2: 非圧縮TIFFで撮影した画像とSHQで撮影したファイルサイズの大きい画像はインデックス再生されます。

注意
- **C-21T.commuでトリミング、画素数変換（VGAへ縮小）して送信した画像は、他のカメラで再生・印刷はできません。C-21T.commuまたは同梱のソフトウェアCAMEDIA Comで再生・印刷してください。**

仕様（カメラ機能）

形式	：デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式	：デジタル記録 (カメラファイルシステム規格 Design rule for Camera File system に準拠する JPEG、及び TIFF非圧縮)
記録媒体	：3V (3.3V) スマートメディア2MB、4MB、8MB、16MB、32MB、64MB
記録コマ数	：約1枚(TIFF非圧縮モード/8MBカード) 約7枚(SHQモード/8MBカード) 約15枚(HQモード/8MBカード) 約38枚(SQモード(XGA)/8MBカード) 約122枚(SQモード(VGA)/8MBカード)
消去	：1コマ消去、全コマ消去
撮像素子	：1/2インチCCD固体撮像素子 ：214万画素(総画素数)
記録画素数	：1600 X 1200 ピクセル (TIFF非圧縮・SHQ・HQモード) ：640 X 480 ピクセル (SQモード、VGA) ：1024 X 768 ピクセル (SQモード、XGA)
ホワイトバランス	：フルオートTTL、 マニュアル(昼光、曇天、白熱球、蛍光灯)
レンズ	：オリンパスレンズ 7.0mm、F2.4、5群5枚 (35mmフィルム換算38mm相当)
測光方式	：撮像素子によるデジタルESP測光およびスポット測光
露出制御方式(撮影モード)	：プログラム自動露出(AE)
絞り＊	：F2.4、F8
シャッター＊	：1/2 ～ 1/750秒 (メカニカルシャッター併用) ＊マニュアル設定はできません。

付録

仕様（カメラ機能）（つづき）

撮影範囲	：0.6m ～ ∞(通常モード) 0.15m ～ 0.6m(マクロモード)
ファインダー	：光学実像式ファインダー(近距離補正マーク、オートフォーカスマーク／逆光自動補正マーク)、液晶モニタ
液晶モニタ	：1.8インチTFTカラー液晶(低温ポリシリコン)
モニタ画素数	：約114,000画素
オンスクリーン表示	：日付時刻、コマ番号、プロテクト、画質モード、電池残量、画像情報、プリント予約、メニュー設定、他
フラッシュ充電時間	：約6秒(常温時、新品電池使用)
フラッシュ撮影範囲	：約0.2m～4.4m
フラッシュモード	：オート発光(低輝度時自動発光、逆光時自動発光)、赤目軽減発光、強制発光、発光禁止
コントロールパネル表示	：画質モード、撮影可能枚数、カード警告、フラッシュモード、電池残量、連写、露出補正、スポット測光、マニュアルホワイトバランス、ISO感度
オートフォーカス	：TTL方式AF コントラスト検出方式／ 焦点調節範囲：0.15m～∞
セルフタイマー	：作動時間約12秒
外部コネクタ	：DC入力端子、データ入出力端子 (RS-232C)、ビデオ出力端子 (NTSC方式)
日付・時刻	：画像データに同時記録
自動カレンダー機能	：2030年まで自動修正
カレンダー用電源	：本体電源と共用 (内蔵キャパシタによるバックアップ付)

ダイレクトプリント（専用プリンタでダイレクトプリント可能）
：1コマプリント、クローズアップププリント、インデックスプリント、予約プリント、全コマプリント、4分割プリント、16分割プリント、転写プリント、日付プリント

カード機能(パノラマ以外は機能付スマートメディア使用)
：パノラマ合成、テンプレート合成、カレンダー合成、手書きタイトル合成

使用環境
温度　：0〜40℃(動作時)／−20〜60℃(保存時)
湿度　：30〜90%(動作時)／10〜90%(保存時)

電源　：3Vリチウム電池パック(CR-V3)1個または単3ニッケル水素電池2本。
単3アルカリ電池、単3マンガン電池、単3リチウム電池は使用できません。

大きさ　：幅106.5mm×
高さ62.3mm×
厚さ35.5mm(突起部含まず)

質量　：195g(電池／カード別)

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

OLYMPUS®

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

アクセスポイント（製品に関するお問い合わせ）

札　幌 ………………… 011-231-2338
仙　台 ………………… 022-218-8437
東　京(八王子)……… 0426-42-7499
名古屋 ………………… 052-201-9585
大　阪 ………………… 06-6252-0506
広　島 ………………… 082-222-0808
福　岡 ………………… 092-724-8215

※上記のアクセスポイントまで電話をかけていただければ、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます。アクセスポイントまでの電話料金はお客様のご負担となりますので、ご了承ください。

営業時間　10：00～17：00（土・日曜、祝日及び弊社定休日を除く）

※オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jpでデジタルカメラ及び関連製品の技術提供をしております。

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休みます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1丁目2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区中央1丁目13-4 泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
新　潟	〒950-0087	新潟市東大通り2の4の10　日本生命新潟ビル	Tel.025(245)7337
松　本	〒390-0815	松本市深志1の2の11　松本昭和ビル	Tel.0263(36)5331
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
金　沢	〒920-0961	金沢市香林坊1の2の24　千代田生命金沢ビル	Tel.076(262)8257
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
高　松	〒760-0007	高松市中央町11の11　高松大林ビル	Tel.087(834)6166
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0001	福岡市中央区天神1の14の1　日本生命福岡ビル	Tel.092(761)4466
鹿児島	〒892-0846	鹿児島市加治屋町12の7　日本生命加治屋町ビル	Tel.099(225)1105
沖　縄	〒900-0015	那覇市久茂地3の1の1　日本生命那覇ビル	Tel.098(864)5396

1AG6P1P0692- -　　VT095200